

平成30年度 校内研修報告書

学校名 藤岡市立小野中学校
住 所 藤岡市立石407番地
校長名 吉崎 仁

I 研修主題

学びをもとに、主体的に判断・表現できる生徒の育成
－生徒に学びのつながりを意識させるつなぎ教材の活用を通して－

II 研究の概要

1 主題設定の理由

昨年度、「学びをもとに主体的に判断・表現できる生徒の育成－ねらいにせまる協働的な学びを通して－」という研究主題を設定し、各教科における目指す児童生徒像をより具体的にしようとして授業実践を行った。小野小・中学校それぞれで授業公開を行い、他校の教員の意見も取り入れながら授業検討を行うことで、研究主題にせまるための授業改善を図ることができた。また、各教科における協働的な学びを手立てとして本時のねらいにせまる授業実践をまとめ、全体で共有することで、成果及び次年度への課題を明らかにした。成果としては、協働的な学びの質を高めることを意識した授業実践を日常的に行うことで、話し合い活動を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学びを導こうとする教員の意識に大きな向上が見られたこと、課題としては、判断力・表現力を高めることをねらいとして話し合いの形態（拡散型・収束型・分類型・組立型）を十分工夫することができなかつたことが挙げられた。また、次期学習指導要領の改定ポイントでは、主体的・対話的で深い学びが示され、協働的な学びの質を高めることが求められており、そのことも踏まえて次年度の研修を進めることとなった。

そこで、本年度は、昨年度までの取組を踏まえるとともに、特に「つなぎ教材」の新規作成・改善や、そのつなぎ方を分類・整理し、教員が学びのつながりの有効性を再確認し、生徒に学びのつながりを意識させる授業改善を図ることで、主体的・対話的で深い学びを導き、生徒の判断力・表現力を伸ばしたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

9年間の学びのつながりを意識した学習指導系統表やつなぎ教材を活用しつつ、授業のスタンダードを意識した実践を行うとともに、特につなぎ教材の新規作成・改善や、つなぎ方を意識した授業改善を行うことで、「学びをもとに、主体的に判断・表現できる生徒」を育てることができるとを、授業実践を通して明らかにする。

3 研究の内容と方法

(1) 研究内容

① 9年間のつながりを生かした授業づくり

・教科ごとに作成した学習指導系統表を活用し、その授業が小学校も含む過去のどの単元とつながっているか、また、これから先のどの単元とどのようにつながっているかを意識して、授業づくりを行う。また、生徒の実態から見た課題を明確にし、強化が必要な単元等を単元配列表の中に色を付けるなどして分かりやすくする。

・学習指導系統表の中に単元ごとに重点とする言語活動を位置付け、つながりのある指導により思考力等の育成を図る。

・授業のスタンダードを基本とする授業展開を行う。それぞれの教科の特性を考慮しつつ、学年や学級が変わってもより多くの子どもが見通しをもって主体的に学習に取り組みやすくする。

・それぞれの教科の特性を生かした手立てを工夫し、言語活動の設定、課題・発問の工夫、支援の工夫、評価の工夫を行う。

② 「つなぎ教材」を活用した授業づくり

・「つなぎ教材」を、1. 新たな学習内容などを扱うとき、日常生活との関連やモデル化、他の教材に置き換えて指導したほうがよい場合に用いる「概念導入型」、2. 前の学習との間に時間的な隔たりがあったり、学習内容の定着が悪いと考えられたりする場合に用いる「復習型」、3. 次の学習内容との間に飛躍があるため、発展的な内容を取り入れたほうがよい場合に用いる「発展型」、の3つの型に分類し、授業のスタンダードの4つの場面（めあてをはっきり、課題をじっくり、まとめをはっきり、振り返りをみっちり）の中で効果的に活用し、学習内容の系統性のギャップやつまづきやすい内容の段差を解消し、学習内容の理解を深める授業展開を行う。

(2) 研究方法

① めざす子ども像の共通理解

昨年度の校内研修の成果と課題を全体で確認し、年間計画とともにめざす子ども像の共通理解を図る。

② モデル授業

年度始めには、今年度から赴任した職員にも研究の具体的な取組を知ってもらうために、全職員が、国語・数学・理科の3つの部会に分かれ、つなぎ教材を活用したモデル授業を参観する。授業研究会を経て全職員に研究の内容を周知させ、疑問点がある場合は解消していく。

③ 計画訪問

計画訪問の前には、小中合同研修会で指導案検討会を行い、小学校の担当教諭との意見交流を深め、つなぎ教材の活用、9年間の系統、協働的な学びの質を高めることを意識して、指導案を練り上げていく。主な学習活動の中でつなぎ教材を活用していくことを基本とし、指導案には、どの型のつなぎ教材をどの学習過程で活用していくか明記し授業に臨む。その後、授業研究会を行う。また、小学校の計画訪問時には教師全員が小学校の授業を参観し、各自の参観記録を読み合うことで連携型小中一貫校としての意識を高めていった。

④ 一人1研究授業

年度の後半には、計画訪問での成果と課題を意識した一人1研究授業を行う。教科等が関連している3つの部会を作り、指導案検討、授業実践・参観、放課後に行う授業研究会で、さらなる授業改善を図っていく。それぞれの部会で職員が集まれるように、教務主任と連携し、週案を調整する。指導案に目指す生徒像を示し、具体的な姿をもとに手立ての有効性について協議した。

4 研究の経過

4/5 本校の取組についての共通理解、教科部会における指導の重点の確認 等

4/24 授業スタンダードの共通理解 モデル授業実施

・2年 国語「タオル」篠崎巧教諭

・3年 数学「多項式」清水みなみ教諭 理科「運動とエネルギー」櫻井大起教諭

5/21 小中合同研修 ・小野中計画訪問に向けた授業構想シート検討

6/4 小中合同研修 ・小野小計画訪問に向けた授業構想シート検討

6/12 第1回校内研修に関わるアンケート実施（生徒・教員）

6/20 小野中計画訪問 教科部会ごとに授業参観

7/6 小野小計画訪問 授業入れ替え授業参観 「小野小に行ってきました」作成

8/21 小中合同研修 「つなぎ教材」講演会 深谷市教育委員会学校教育課 吉田課長

9～2月 一人1研究授業

10/22 「夢に向かってかがやく子」育成アクションプラン学年版検討

1/21 教科部会 「年間指導計画」、「系統一覧表」、「指導の系統」の朱入れ

- 1/30 第2回校内研修に関わるアンケート実施（生徒・教員）
- 2/18 小中合同研修 1年のまとめ 教科部会 指導の振り返り 次年度の教科指導の重点
- 2月末 CRT分析 次年度の校内研修の方法、計画検討
- 3月末 「研修のまとめ」（略案＋実践の報告書）の作成完了・配布

5 主な実践

○「学びのつながりを意識させるつなぎ教材の活用」を意識した授業づくり

- ・平成30年4月24日（火曜日） 国語 指導者 篠崎 巧

単元名 言葉が照らし出す 物語「タオル」

小学校から継続して使用している「学びのつながりブック」を活用し、本時の授業を通してどんな力が身に付くかを明確にすることで「めあて」に対して主体的に取り組むことができるようにする。小学校の学習内容と比較し、小学校で身に付けたどのような力を活用し、どのような力を伸ばしていくのかを実感をもってつかめるようにした。

- ・平成30年11月26日（月曜日） 数学 指導者 清水 克也

単元名 「平行と合同」

授業の導入では、図形の基本事項をフラッシュカードにより生徒に説明させたり、宿題の解答を説明させたりして、自分から取り組もうとする意欲を高めた。生徒同士で説明し合う場面ではまず自分の考えをもたせ、そして二人組になって相手に口頭で証明を伝える場面を設定した。次に、多くの生徒同士が互いに教え合い理解を深められるような段階を設けた。証明を言うときには、生徒が抵抗なく取り組める形式が決まっている簡単な問題を中心に行ったり、記録表を設けて複数回説明をすることに対する意欲付けを行ったりした。

○「研修のまとめ」（報告書）の作成

学びのつながりを意識させるつなぎ教材の活用がどのように生徒の主体的な判断・表現につながったのか、授業の概要、成果と課題をまとめた報告書を作成した。教科におけるめざす子ども像や、つなぎ教材の型とそれを用いる学習過程を併記し、成果と課題がわかりやすい報告書にした。計画訪問と一人1研究授業で授業改善が終わるのではなく、継続して改善を考えることで、教員の意識の向上を図ることができた。また、実践内容を共有することで、優れた手立てについて理解を深めることができた。

Ⅲ 研究実践の成果と課題

○全教員が、「課題をじっくり」の場面で、「つなぎ教材」を活用する授業実践を日常的に行ったことで、生徒がこれまで学んできたことを生かす授業、学びのつながりを意識した授業になった。

○教職員の半数程度が入れ替わった中でも、授業スタンダードや学びのつながり、つなぎ教材の活用を意識したモデル授業を公開し授業研究会をすることで、研修テーマに沿った授業づくりを全員が実践できた。年度末に行ったアンケートでは、授業はわかりやすかったと答えた生徒が92.3%（よくあてはまる＋ややあてはまる）に達し、学びのつながりを意識することが授業のわかりやすさにつながることが確かめられた。

●「課題をじっくり」の部分でつなぎ教材を活用する意識が高まったが、「めあて」に対する「まとめ」の整合性をとるところや、課題が早く終わった生徒への複線型指導の充実、振り返りの時間の確保、などの部分に課題がある。

●小中合同研修を効果的に活用し、お互いの授業公開・研究会を通して、学びのつながりやつなぎ教材について相互理解を深めていく。

●モデル授業や授業公開などを通し、年度が変わっても、授業スタンダードと9年間の学びのつながりを意識した授業やつなぎ教材を活用した授業づくりが継承されるようにする。

IV CRT学カテストの結果分析及び次年度の学力向上対策の方向性

1学年	成果	課題	来年度の授業づくりに向けて
国語	△「読むこと」が全国正答率を上回った。めあてを明確にして何を学ぶべきかを確認しながら学習に取り組んできた成果だと考えられる。 △「文法・語句」の問題で全国正答率を上回った。学習プリントを活用し繰り返し学習してきた成果だと考える。	▼「漢字を読む」「漢字を書く」が全国正答率を下回った。基礎基本の学習内容なので適宜復習したい。 ▼ポスター作りや、本の「帯」作りなど多様な表現活動を通して、表現力を高めていきたい。	・家庭学習を活用した「漢字」など基礎・基本の学習内容の定着。 ・ポスター作りや本の「帯」作りなど、読み手を意識して、表現できる多様な活動を取り入れていく。
数学	△問題の内容別に見ると「絶対値」について理解している。「時差の問題」の正答率が目標値や全国正答率を上回っている。 △他の教科の内容が数学の考え方も活用できるつながりを感じることができた。	▼課題克服として、授業内での問題を取り組む時間の確保。問題を取り組む量の確保。確実に学習内容の定着を図るために家庭学習用のプリントを繰り返し取り組んでいく。	・約分の多い分数のわり算や分数・小数・整数の混合計算の練習問題に繰り返し取り組み、確実に身に付けさせる。 ・文章問題の立式をする際、図を使って考える習慣を身に付けさせる。
理科	△植物分野の光合成に関する問題や葉で作られた養分が師管を通過して移動する内容を理解している割合が多い。 △地理的分野では「宗教に関する主題図」「EU」「アフリカ州」などが全国正答率を上回った。グラフの読み取りや資料をチェックした効果が出たと思われる。	▼物理現象の光について反射の法則や光の屈折、全反射などエネルギー分野において苦手意識があることが明確になった。 ▼地理的分野では1学期の学習内容で忘れていた生徒が多数いると思われる。復習をする必要がある。 ▼歴史的分野では特に「古墳時代」「飛鳥時代～奈良時代」が全国正答率を下回った。歴史の流れを再確認しておく必要があると考える。	・電流や電圧などの電気エネルギーについて概念をもたせつつ、オームの法則の計算問題を根気よく行い、定着させる。 ・基礎・基本的な内容の確認、社会科用語の豆テストなど、粘り強く学習させていく必要がある。 ・グラフや表、主題図のチェックなど、継続して資料を読み取る力を付けていく必要がある。
社会	△歴史的分野では「摂関政治」が全国正答率を上回った。歴史的分野は用語等の繰り返しが必要なので、復習をさせていきたい。	▼「単語の並べかえによる英作文」で全国正答率を下回った。冠詞の用法の定着が不十分のためと考えられる。 ▼手紙の要点を把握すること、手紙の内容に関する質問に英語で答えることが下回った。特徴的な長文や英問英答が苦手なためと考えられる。	・自分の意見を文章化して発表する能力を付けるためにも、上に記したような能力を身に付けさせていきたい。
英語	△「語彙の知識・理解」は、定期テストだけでなく、ミニテストやスベリングコンテスト等に向けて、練習を重ねたことで定着を図ることができた。 △授業のまとめとして英文を書きたため、単元の最後でまとめた文章にする練習を重ねたことで、英作文の力を付けることができた。	▼冠詞や代名詞等、学習したことをまとめる時間をもち、用法の定着を図る。 ▼教科書の本文以外のいろいろな長文にふれる機会を設け、読み取りのコツを身に付ける。 ▼授業の中で、英語でやりとりをする時間を多くもち、普段から英問英答に慣れ、質問が分かって正しく答えられる力を付ける。	・冠詞や代名詞等、学習したことをまとめる時間をもち、用法の定着を図る。 ・教科書の本文以外のいろいろな長文にふれる機会を設け、読み取りのコツを身に付ける。 ・授業の中で、英語でやりとりをする時間を多くもち、普段から英問英答に慣れ、質問が分かって正しく答えられる力を付ける。
まとめ	・各教科とも、基礎的・基本的な内容で一問一答で答えられる問題は比較的にできていた。授業をはじめ、家庭学習や長期休みの課題等において、繰り返し学習した成果と思われる。	・各教科とも、深く思考したり、資料から読み取ったりする問題で正答率が低く出ている。文章を正しく理解したり、自分の言葉で表現したりする力を身に付ける必要がある。また、個々の問題については分かるが、全体像を捉えることが苦手な実態がある。授業でも、まとまりやつながりを意識して考える機会を増やして、考える力を高めたい。	・落ち込んでいる単元や内容等を、授業で意図的に復習したり、家庭学習で繰り返し学習して、定着を図る。 ・個々の生徒の実態を把握し、生徒に合わせた指導ができるよう、複線型の授業や手立ての工夫をしていく。
2学年	成果	課題	来年度の授業づくりに向けて
国語	△「漢字を書く」で全国正答率を上回ることができた。年2回の漢字コンテストや、毎週の課題の漢字プリントで積み上げてきた成果であると考えられる。 △「資料をもとに話し合う」「作文」で全国正答率を上回った。授業において表現活動を重視し、特に「書く」活動の中で評価項目を明確にして繰り返し学習をしてきた成果だと考えられる。	▼表現をもとに登場人物の心情をとらえる問題は目標値をこえているものの、表現の工夫をとらえることができていない生徒が多い。比喻や過去形といった言語事項とも係わることで、知識としての知識だけではなく、実際の文章と係わらせて読むことができるようにしたい。	・「読むこと」の学習において、めあてを明確にして、何を学ぶのかを生徒にわかるようにする。「学びのつながりブック」で身に付けたいことを適宜確認して、心情や内容の読み取りだけでなく表現や構成の工夫にも目を向けて読むことができるようにしたい。
数学	△内容別では「式と計算」「連立方程式」「図形の性質」は全国正答率を上回った。冬休みの課題を自作し基本的な内容を重視して復習したことや図形の性質を小学校とのつなぎ教材を使用し指導したこと、フラッシュカードでの日々の復習で基本的な学習内容の定着を図ることができた。	▼「活用」は全国正答率と比較し、-1.1ポイントで、教科書レベルの学習内容を身に付けることを学習の中心とするしかない実態であることから、予想通りの結果であった。 ▼内容別では「1次関数」「証明」、問題別では、「動点と面積」「水位の変化」「グラフの特徴」など基礎的な内容を活用することが不十分である。	・「授業でわかること」「自分でできること」のギャップを埋めるため、家庭学習で問題練習を増やすことが必要であるとともに、じっくり考えることを単元指導計画に明確に位置付けることが必要である。 ・少人数指導では、それぞれのコースにおいて重点を置く内容や考え方を明確にして、個に応じて力を高めていきたい。
理科	△正答率は目標値より「理科全体」では3.4ポイント上回った。授業ことの振り返りやテスト前の復習、補習等により、学力を向上させることができた。 △内容別では「物質の成り立ち」「化学変化」「動物のからだのつくりとはたらき」は全国正答率を上回っている。	▼小数・分数の計算や割合が苦手な生徒が多いので、丁寧に復習していきたい。 ▼「動物と植物細胞の違い」を8割以上の生徒に理解させるようしっかりと復習させたい。また、「両生類の呼吸、ハチユウ類の分類、相同器官」を9割以上の生徒が解答できるようにする。	・「授業の振り返り」と「計算問題を丁寧に指導すること」が大切である。今後も継続してプリントや補習により苦手意識をなくしていきたい。 ・計算問題では中学校での復習だけでは間に合わない面もあるので、小学校から基礎力を付ける方法を考えしていきたい。
社会	△前年度比でほとんどの問題が正答率が下回っている学年ではあるが、「活用」で2.3ポイント上回った。 △単元の終わりにその都度、単元テストを実施し、さらに授業のまとめを自分の言葉でまとめるなど、活用する力の向上を図ることができた。	▼内容別では「日本の地域構成」-1.1ポイント、「日本の諸地域」-1.8ポイント、問題別では、「大阪大都市圏」「豊臣秀吉の朝鮮侵略」「朱印船貿易」「鎖国」「江戸時代の農村のくらし」など基礎的な内容の定着が不十分である。	・本学年生徒の実態を、授業の見取りやCRTの結果から考えると、基礎の定着を図るために、授業はじめの確認テストの充実が必要であると考えられる。
英語	△目標値と比較して、「活用」が1.5ポイント上回っている。 △内容別では、「書くこと」が目標値を1.7ポイント上回っている。単元ごとに習った文法を用いて文を書きためる活動を行い、書く能力を高めることができた。	▼全体的に全国正答率を下回っている。内容別では「聞くこと」「書くこと」「読むこと」がマイナスポイントとなっている。特に、「対話の内容を聞き取り適切に答える」問題の正答率が低く、相手の質問内容に適切に答えることができていない。全体的に基礎的な内容の定着が不十分である。	・本学年生徒の実態を、授業の見取りやCRTの結果から考えると、授業で習ったことだけでなく、前年度学習したことを復習できるように帯活動の充実が必要であると考えられる。 ・帯活動やテストの中で既習事項を繰り返し練習させ、基礎力を定着させたい。
まとめ	・各教科ともに学習内容をたづなみでは理解している。基礎的な内容で一問一答式で簡単に答えられる問題についてもよくできている。授業及び家庭学習課題で基本的な内容に重点を置いて指導したことが成果を収めた。	・読み取りの力不足や語彙の不足、各教科の用語の定着に難がある。やや難しい問題や複数のことから(理科)で求めるための計算ができていない等も含め)が絡み合った問題ができていない。	・入試対策用の5教科のテキストを基本にして、できない問題の原因となっていることをできるようにする姿勢を高めるとともに、個別指導に依頼している内容をできるようにすることが必要である。

平成 30 年度

研 修 の ま と め

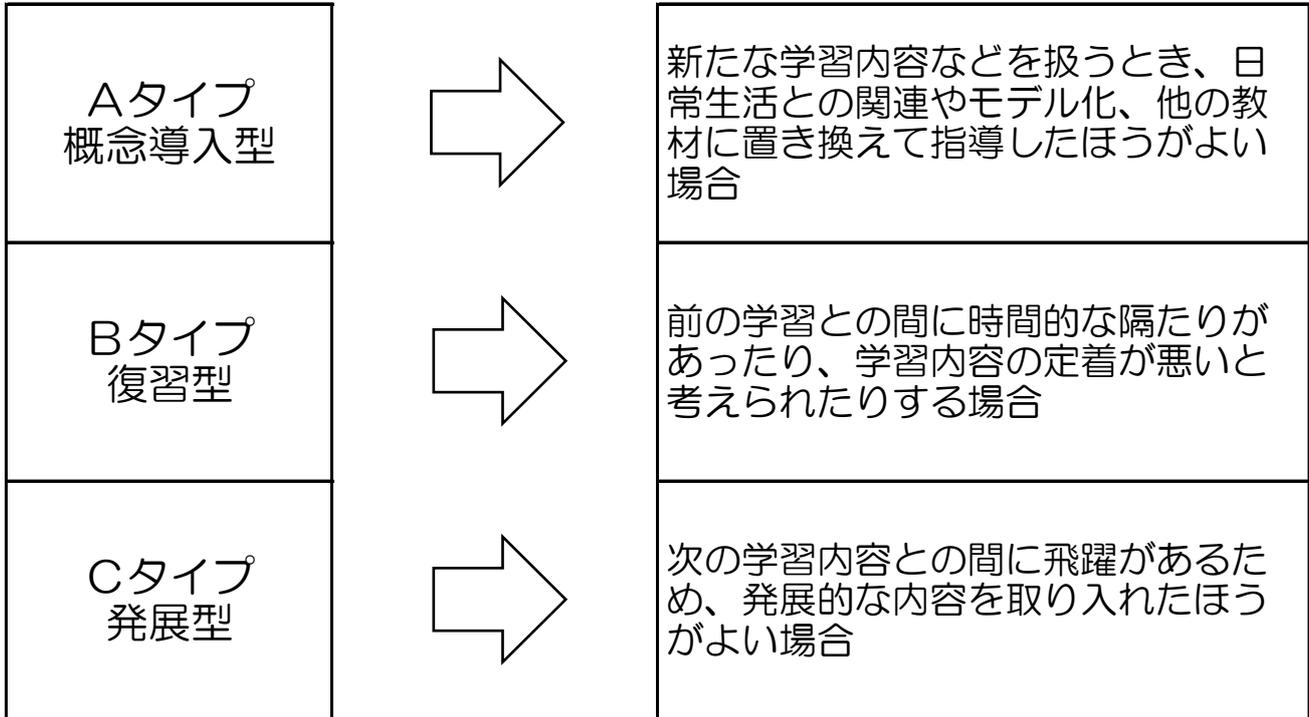
学びをもとに 主体的に判断・表現できる生徒の育成
—生徒に学びのつながりを意識させるつなぎ教材の活用を通して—



藤岡市立小野中学校

「つなぎ教材」とは

つなぎ教材の3つの型



つなぎ教材の位置づけ

授業のスタンダードの中で			
ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
めあてをはっきり	課題をじっくり	まとめをしっかりと	振り返りをみっちり

H30 校内研修アンケート第2回 評価結果 (藤岡市立小野中学校)

実施日: 2019/1/30

評価項目	対象	第2回全校						1年		2年		3年		第1回全校		H29	
		A	B	A+B	C	D	C+D	A+B	C+D	A+B	C+D	A+B	C+D	A+B	C+D	A+B	C+D
1 机の上をきちんと整理して授業を受けた。 授業で机の上を整理するように指導しましたか。「授業で大切にしたい3つのこと」	生徒	65.1%	32.4%	97.5%	2.5%	0.0%	2.5%	95.7%	4.3%	97.7%	2.3%	99.0%	1.0%	97.0%	1.0%	96.0%	4.0%
	教職員	45.5%	45.5%	90.1%	9.1%	0.0%	9.1%							90.0%	4.0%	95.5%	4.5%
2 自分の考えや先生の話をもろしながら授業のノートをしっかりとした。 授業でノートを活用するように指導をしましたか。「授業で大切にしたい3つのこと」	生徒	35.6%	55.6%	91.2%	8.5%	0.4%	8.9%	89.1%	10.9%	93.2%	6.8%	91.3%	7.7%	91.0%	7.0%	89.0%	11.0%
	教職員	54.5%	31.8%	86.4%	9.1%	0.0%	9.1%							90.0%	9.0%	100.0%	0.0%
3 話し合いのルールを守って、話し合い活動を行った。 話し合いでは、互いの良さを認め合える指導をしましたか。「授業で大切にしたい3つのこと」	生徒	38.7%	54.9%	93.7%	5.3%	0.4%	5.6%	92.4%	6.5%	93.2%	6.8%	95.2%	3.8%	94.0%	5.0%	93.0%	7.0%
	教職員	31.8%	63.6%	95.5%	4.5%	0.0%	4.5%							90.0%	9.0%	95.5%	4.5%
4 授業の始めに「めあて」が示され、授業で何を学習するかがわかったか。 授業の始めに、ねらいにそつためあてを示しましたか。「めあてをはっきり」	生徒	63.7%	33.5%	97.2%	2.8%	0.0%	2.8%	94.6%	5.4%	96.6%	3.4%	100.0%	0.0%	95.0%	3.0%	95.0%	5.0%
	教職員	68.2%	22.7%	90.9%	9.1%	0.0%	9.1%							85.0%	13.0%	95.4%	9.5%
5 授業では、小学校の学習や、これまで学んできたことを生かして、考えた。 つなぎ教材(ことばも含む)を活用して、日常的に生徒に学びのつながりを意識させましたか。	生徒	42.3%	52.5%	94.7%	4.6%	0.7%	5.3%	96.7%	3.3%	92.0%	8.0%	95.2%	3.8%	93.0%	4.0%	89.0%	11.0%
	教職員	45.5%	50.0%	95.5%	4.5%	0.0%	4.5%							86.0%	13.0%	86.4%	13.6%
6 授業では、これまで学んだことを生かして、進んで話し合い活動することができた。 生徒が話し合いや自力解決により、課題に対してじっくり取り組むための工夫を行いましたか。「課題をじっくり」	生徒	29.6%	61.3%	90.8%	8.5%	0.7%	9.2%	88.0%	12.0%	94.3%	5.7%	90.4%	9.6%	85.0%	13.0%	-	-
	教職員	31.8%	50.0%	81.8%	18.2%	0.0%	18.2%							76.0%	22.0%	-	-
7 授業では、自分の考えを発表する機会があった。 生徒が意見を発表する機会を積極的に取り入れましたか。	生徒	52.8%	39.4%	92.3%	7.7%	0.0%	7.7%	85.9%	14.1%	94.3%	5.7%	96.2%	3.8%	92.0%	5.0%	98.4%	1.6%
	教職員	31.8%	54.5%	86.4%	13.6%	0.0%	13.6%							86.0%	13.0%	100.0%	0.0%
8 課題が早く終わったときには、新しい課題があった。 課題が早く終わった生徒を待たせない複線型指導を行いましたか。	生徒	38.7%	49.6%	88.4%	10.9%	0.7%	11.6%	83.7%	16.3%	90.9%	9.1%	90.4%	9.6%	93.0%	5.0%	-	-
	教職員	31.8%	45.5%	77.3%	22.7%	0.0%	22.7%							72.0%	18.0%	-	-
9 授業で学んだことを、自分の言葉でまとめた。 授業で学んだことを、自分の言葉でまとめさせるなど、思考力・表現力の育成を図りましたか。「まとめをしっかり」	生徒	20.1%	53.5%	73.6%	24.3%	1.1%	25.4%	68.5%	30.4%	78.4%	21.6%	74.0%	24.0%	86.0%	11.0%	92.3%	7.7%
	教職員	9.1%	72.7%	81.8%	18.2%	0.0%	18.2%							85.0%	13.0%	86.4%	13.6%
10 授業で学んだことを、振り返った。 振り返りの質を高める工夫を行いましたか。「振り返りをみっちり」	生徒	35.2%	50.0%	85.2%	13.0%	1.4%	14.4%	80.4%	18.5%	85.2%	14.8%	89.4%	10.6%	88.0%	10.0%	87.7%	12.3%
	教職員	22.7%	54.5%	77.3%	22.7%	0.0%	22.7%							81.0%	18.0%	95.4%	4.5%
11 授業はわかりやすかった。 生徒の実態に合わせたわかりやすい授業づくりをしましたか。	生徒	40.5%	51.8%	92.3%	7.0%	0.4%	7.4%	89.1%	10.9%	94.3%	5.7%	93.3%	5.8%	-	-	-	-
	教職員	31.8%	63.6%	95.5%	4.5%	0.0%	4.5%							-	-	-	-

色分け **90%以上** **85%未満** つなぎ教材

<問1~4>
 ○「授業で大切にしたい3つのこと」や、授業スタンダードの「めあてをはっきり」までの項目値が第1回より全体的に上昇している。今年度本校に転任してきた先生方にも授業スタンダードを意識した授業づくりが定着したと考えられる。
 ●よくできているノートを紹介したり、意識しているノート指導について共通理解を図ったりして、来年度の学力向上につなげていく必要がある。

<問5・6>
 ○本年度の校内研修のサブテーマである、「生徒に学びのつながりを意識させるつなぎ教材の活用を通して」に関わる項目である。第2回ではA+Bの数値が生徒・教職員ともに5.8ポイントアップした。つなぎ教材の活用を意識した教職員の授業づくりの成果だと考えられる。
 ●「課題をじっくり」の部分での時間の取り方や話し合いのさせ方など、つなぎ教材を使ってじっくり取り組むための工夫を考えていく必要がある。

<問7~10>
 ●「課題をじっくり」の部分への意識が高まったが、めあてに対する「まとめ」や複線型の指導、振り返りなどに課題がある。引き続き生徒の発達段階に応じて自分のことばによるまとめを指導していく必要がある。複線型指導について来年度の取組を考え、学力向上につなげていく必要がある。

<全体>
 ○教職員の半数程度が入れ替わった中でも、授業のスタンダードや学びのつながり、つなぎ教材の活用を意識した授業づくりが授業のわかりやすさにつながったと考えられる。

数 学 科 学 習 指 導 案 (略案)

平成30年10月30日 3校時 第1学年

1年2組 指導者 間正卓磨

1 単元名

比例と反比例 比例と反比例の利用

2 本時のねらい

小学校では表、比例式を利用して解決してきた。中学校では、 $y=ax$ (比例) を活用して身のまわりの問題を解決することができる。

3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>Q シュレッダーで細かくされたコピー用紙のゴミあります。 このゴミが、A4のコピー用紙で何枚分になるか知りたいとき、どのようにして調べればよいでしょうか。</p> <p>○シュレッダーされたゴミの実物を見せる。 ・ゴミをあわせて何枚か予想するのは、難しい。 ・見た目では正確に予想するのは難しい。</p> <p>○本時は比例の考えをつかって解くことを意識させる。 ○本時のめあてをつかむ</p>	<p>◇A 概念導入型 身近なことにも比例の考えが使えること意識させる。</p> <p>○金額、ゴミの重さ、枚数の表を提示する。 ○ゴミの重さと枚数の関係が比例していること</p>
	<p>めあて 身のまわりの問題を比例の考えを活用して解決しよう。 を伝える。</p>	
課題をじっくり	<p>◎問1に取り組む。 1 比例の考えを利用して、ゴミ 5.6 kg の場面で考えよう。</p> <p>生徒の予想 ①、②は多いと予想する。③は少ないと予想される。</p> <p>○比例の考えを使って解く。①比例式を用いて解く。 ②小学校の知識を用いて表を作り、重さ $x(\text{kg})$ を○倍、枚数 $y(\text{枚})$ も○倍して解く。③$y=ax$ の式を用いて解く。</p> <p>○簡単に求める方法はどれか考える。 ・$y=ax$ の式を用いると、重さ $x(\text{kg})$ に代入するだけで、枚数 $y(\text{枚})$ が求められる。</p> <p>○1組の x と y の値の組を $y=ax$ の式に代入して解く。 問1(3)を $y=ax$ の式にしよう。</p>	<p>○表を用いて取り組む。比例式で取り組む生徒が多いと予想される。</p> <p>○ゴミの重さが常に 5.6 kg とは限らないこと。毎回、計算し、手間がかかることを気づかせる。</p> <p>2 ゴミの重さがいろいろな場面でも、対応できるように $y=ax$ の式の形にしよう。</p> <p>○$y(\text{kg})$ と $x(\text{重さ})$ の関係性をみつけさせる。 ○$y=ax$ の式に一般化させることで簡単に求めることができ、小学校との求め方の違いを気づかせる。</p>
	<p>○比例の利用についてまとめる。 比例の問題は、小学校では表、比例式をつかって解ける。中学校では $y=ax$ の式で表し、一般化させることでいろいろな枚数、重さ、金額の場面で簡単に求めることができる。</p>	
振り返りをみっちり	<p>○枚数、金額の関係を式にして解くことができる。 重さ、金額の関係を式にすることができる。</p> <p>2通りの考えがあることに気づく。</p>	<p>◇B 復習型 $y(\text{kg})$ と $x(\text{重さ})$ の関係性をみつけさせ、一般化することで、いろいろな場面でも簡単に求めることに気づかせる。</p> <p>◇B 復習型 同じような場面でも一般化し、簡単に求めることができる。</p>
	<p>子どもの姿 ○小学校と中学校の解き方の違いに気づき、重さ、枚数、金額の関係性を $y=ax$ の式にし、問題が解ける喜びを感じている。</p>	

一人1研究授業まとめ

1年数学 間正 卓磨

1 数学科における目指す子ども像

- 数量や図形などについて基礎的な概念・原理を理解し、事象を数学的に表現・処理できる生徒。
- 数学を活用し事象を論理的に考察できる生徒。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを感じ、数学を生活や学習に生かそうとする生徒。

2 題材名・単元名「比例と反比例 比例と反比例の利用」

本時1時間目

小学校では表、比例式を利用して解決してきた。中学校では、 $y=ax$ （比例）を活用して身のまわりの問題を解決することができる。

3 つなぎ教材の活用と成果

(1) A 概念導入型 めあてをはっきり

- シュレッダーされたゴミの実物を見せることで、身近なことにも比例の考えが使えること意識させる。



<成果>

生徒達は、比例の考えを使って解くことができる。式を一般化してどのゴミの重さでも対比しながら解くことができることを理解していました。しかし、式を一般化する際の x と y を代入する箇所を間違えるケアレスミスはありました。

4 課題

生徒の意見で、1g あたりにかかる金額の意見が出たときに具体的な数字で例を見せてしまったのでほとんどが同じ解き方で解いてしまい多様な考え方がうまれないまま進んでしまったことが今回の失敗の要因です。



授業改善に向けて、私はこうします！

生徒の考える場面、生徒の発表した場面での適切な声かけを気をつけます。教師は話しすぎずに適切な意見を拾いフォローをしていきたいです。

社会科学習指導案(略案)

平成30年12月3日 5校時 第3学年
3年組(5組教室) 宮村 あゆみ

1 単元名 東北地方

2 本時のねらい

写真や雨温図を通して、東北地方の気候の特徴を理解する。

3 展開

	生徒	教師
めあてをばしきり	<ul style="list-style-type: none"> ○東北地方の県名をあげる。 ○東北地方クイズをする。 ○本時のめあてをつかむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主導ですべての県が挙げられるように支援する。 ◇A概念導入型 B復習型 ・ICTを使用し、東北地方のイメージと単元がつながるようにする。
課題をこしら	<ul style="list-style-type: none"> ○日本にはどんな種類の気候があったのだろうか。 ・教科書を使おう。・友達に聞こう。 <p>【試行活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2つの雨温図から東北地方の気候の特徴を読み取り、付箋に理由を書く。 ・一人で書いてみる。 ・グループで根拠、理由になるか話し合う。 ・全体で発表し確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇B復習型 2・3年生の学習から、日本の気候種類を復習させる。(教科書P 143)を復習し、東北地方の気候を調べる手がかりにさせる。 ○日本のそれぞれの気候の特徴を思い出させながら、想起させる。 ・自分で考えて分からない場合は、教科書で調べようようにアドバイスする。 ・自分の考えをグループで交流することで、全員が主体的に取り組めるようにする。 ・答えが出ない場合は、教科書P 143の地図で確認させる。
	<p>子どもの姿(発想・構想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東北地方の気候を根拠・理由をもとに、明らかにしようとしている。 ・2年生の既習事項を想起し、根拠・理由を書いている。 ・教科書P 143の主題図④、雨温図の形、地形の名前(日本海、太平洋)を手がかりに、降水量、気温に注目して気候区分を明らかにし、根拠、理由を書いている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書P 243を読む。 ・全員で丸読みをする。 ・内容を地図1に可視化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない漢字に読みがなを書くとともに重要語句にラインを引くように指導する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートにまとめをする 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめを確実なものにするために教師主導で生徒とまとめるようにしていく。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習で学んだことと自分の住んでいる群馬と比べてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりが進まない生徒には、本時の流れの一緒に確認する。 ○次時の予告 東北地方の産業(農業)について学習することを伝える

一人1研究授業のまとめ

3年特支 宮村 あゆみ

1 社会科における目指す子ども像

- 社会的事象を大観し、資料や主題図などで検証してノートにまとめる活動を通して、地理的な特色をとらえる力が高めていくことができる生徒の育成。
- 社会的事象を多面的・多角的にとらえることのできる生徒の育成。
- 興味・関心を持って、授業に取り組むことのできる生徒の育成。

2 単元名「東北地方」本時2時間目

地形図と雨温図を読み取り、話し合い活動を通して、自分の考えをまとめる。

B

A

3 つなぎ教材の活用と成果

(1) B復習型A概念導入型 めあてはっきり

東北地方の都道府県を一人1つずつ発言し、日直が板書に記入する。

(都道府県名の復習・B復習型)

ICT を利用し、東北地方の各都道府県の様子や特徴をクイズ形式に東北地方をイメージできるようにする。(A 概念導入型)



〈成果〉

地理の学習では、授業の導入場面に単元の都道府県名に復習から都道府県クイズをして本時の課題に入る。という流れをつくることで落ち着いて授業に取り組むことができた。ICT を利用することにより東北地方を視覚的にとらえることができた。



(2) B復習型 課題をじっくり

地形図に雨温図の都市の場所を記入する。海や山脈名を入れながら地形をとらえる。

教科書P 143 を参考にして、日本の気候種類を復習する。

〈成果〉

自分の考えを発表することで友達の考えと比較することができた。東北地方の気候の違いに気付く生徒もいた。

4 課題

既習事項が理解できない生徒が多く、学習のめあてに到達することができない生徒が多かった。降水量の様子、気温の様子とそれぞれ分け、スモールステップで一斉指導で読み取る。そして、話し合い活動にはいった方が理解が深まったと考える。

授業改善に向けて、私はこうします！

生徒理解に励み、実態に応じてスモールステップで学習をすすめていく。
視覚的に理解できるように ICT の活用をすすめていく。

家庭科学習指導案(略案)

平成30年11月1日 5校時 第1学年
1年2組(1年2組教室)熊木 春奈

1 題材名

住まいの役割と住まい方を考えよう。

2 本時のねらい

具体的な家の間取りを見ながら作業をすることで、家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について、気付くことができる。

	生徒	教師
めあてをはっきり	<p>○予想される生徒の反応。 ・リビング、寝室、キッチン、お風呂、トイレ、自分の部屋…など。</p>	<p>◇A概念導入型 日常生活を振り返り、自分が毎日住んでいる家から授業につなげる。 ○生徒たちの家に、どのような部屋があるかを聞く。 ○家の部屋の並びを、「間取り図」ということをおさえる</p>
	<p>めあて 具体的な家の間取り図をみて、住まいの役割を考えよう。</p>	
課題をじっくり	<p>◎課題 磯野家の間取り図を見て、5つに分類しよう。 ・個人で考える ・グループで考える</p> <p>○教科書P131を見ながら、部屋の5つの役割を確認して、再度磯野家の間取り図を色分けする。</p>	<p>○教科書やワークを見ずに、自分の考えで磯野家の間取りを分類するように伝える。 ○個人でまとめた後に、グループで共有することで、周りの人の意見を聞きつつ、変更してもよいことを伝える。</p> <p>○出てきた意見を振り返りながら、教科書を見ながら、住まいの空間は5つに分けることができることを確認していく。</p>
まとめをはっきり	<p>《おさえたポイント》 ① 家族共有の空間 ②個人の空間 ③生理・衛生の空間 ④家事の空間 ⑤移動と収納の空間</p>	
振り返りをみっちり	<p>○住まいの空間には、それぞれ役割があることに気付くことができる。</p>	<p>◇C発展型 「生活に生かしたいこと」で本時で学んだことから、実生活につなげる。 ○磯野家の間取り図ばかりにとらわれた振り返りにならないよう、実生活に関連して振り返られるよう伝える。</p> <p>○次回は、日本各地の家の工夫を見ていくことを言う。(寒い地域の暮らし、暑い地域の暮らし、都市部の暮らし、田舎の暮らしなど)</p>
	<p>○振り返りをする。 →授業でしたこと、分かったこと、生活に生かしたいことを書く。</p> <p>○予想される生徒の反応 ・住まいにはそれぞれ役割が必ずあると分かった。 ・人がいる空間と活動をする空間が分かれていることに気がついた。 ・自分の家の間取り図も調べてみたいと思った。</p>	

一人1研究授業まとめ

家庭科1年 熊木 春奈

1 家庭科における目指す子ども像

- 授業で取り組んだことを実生活に生かしていける生徒
- 作業を通して、発見し気がつくことができる生徒

2 題材名・単元名「住まいの役わりと住まい方を考えよう」

本時1時間目

具体的な家の間取り図を見ながら作業をすることで、家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について気付くことができることをねらいとした。

3 つなぎ教材の活用と成果

(1) A 概念導入型 めあてをはっきり

日常生活を振り返り、自分が毎日住んでいる家の空間を書きあげることで、自分たちの住んでいる家には、さまざまな空間があり共通している空間もあれば、異なる空間もあることに気がつくことができるようにする。

<成果>

最初に、「部屋」という言葉を使ってしまったので、「階段や押し入れはどうなりますか」と聞かれたが、その質問から多くの生徒が「ああ、そういう場所もあった」と気がつくことができていた。個人で考えた後に、全体で共有することで生徒に共通している空間（リビング、キッチン、トイレ、お風呂）と、異なる空間（土間、庭、物置）があることに気がついていた。

(2) C 発展型 振り返りをみっちり

磯野家の間取り図から、部屋にはそれぞれ役割があることに気がつき、それを自分の家などの他の場合で考えることができるようにする。

<成果>

何人かは、振り返りの感想で「自分の家の間取り図も色分けをしてみたい」や「家は役割によって分けることができる」と書いていた。



4 課題

磯野家の間取り図を色分けすることに一生懸命になりすぎて、役割の確認の部分や振り返りの部分に時間をかけることができなかった。色分けをした後に、なぜそのように色分けをしたのかの理由を書く欄を設けるべきであった。それぞれの部屋の役割を生徒に考えさせることなく、こちらから提示してしまったので、班で考えた色分けを全体で共有してどうしてそのような分け方をしたのかを話し合った方が効果的であった。また、ICTを活用して視覚的にアプローチすべきであった。

授業改善に向けて、私はこうします！

- ◎作業ばかりに力を入れるのではなく、生徒同士が話し合う時間を設ける。
- ◎ICTを活用して、より視覚的に見える授業を考えていく。
- ◎授業で取り組んだ課題から実生活へつなげられるように、生徒の視点が広がるような話やまとめをする。

保健体育科学習指導案（略案）

平成30年12月14日 第3校時 第1学年
1年3組（体育館）高岩 友美

1 単元名 ダンス（現代的なリズムのダンス）

2 本時のねらい

構成の仕方を選んで組み合わせることで、班で動きの工夫をすることができる。

3 展開（本時 7 / 9）

	生徒	教師
めあてをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○ランニング、準備体操、柔軟 ○ウォーミングアップ「やってみよう」のダンスを踊る。 ○本時のめあてをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの予防のために、一つ一つの動きを正確にさせる。 ・準備体操は音楽をかけて行い、リズムに乗って動くことに慣れさせる。 ・単元の前半で学習したダンスを踊ることで、全身で弾んで踊ったり、隊形移動に取り入れた工夫を確認したりさせる。【B復習型】
	めあて 条件を満たしながら、班で動きを工夫しよう。	
課題をじっくり	<ul style="list-style-type: none"> ○「波乗りジョニー」のA・Bパートの振り付けを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・カウントで踊る。 ・曲に合わせて踊る。 ○動きの工夫の仕方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニゾン（同一の動き） ・カノン（追いかける動き） ・シンメトリー（対称の動き） ・アシンメトリー（非対称の動き） ○班ごとに動きの工夫を考える。 【条件】カノン・シンメトリーの動きを構成に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した振り付けを、思い出させる。 ・まずはゆっくりのカウントで正しいステップを踏んでいるか確認させる。 ・曲に合わせてリズムに乗って全身で弾んで踊ることを意識させる。 ・「やってみよう」ダンスで取り入れた隊形移動の工夫を思い出し、振り付けの中に生かそうという意欲を持たせる。 ・簡単なステップで構成されたダンスなので、班で動きを工夫することで見映えを良くしていくことを考えさせる。 ・ダンスが苦手な生徒へは、ステップの細かな確認よりも、班でそろえて踊ることを重視させる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○2班でダンスを見合う。 ・A・Bパートを音楽に合わせて踊る。 ・見た後は良かったところを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する前に見るポイントを伝えることで深まりのある意見交換ができるようにする。 ・感想や意見を伝えることで、仲間のよい動きに気づかせる。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードに本時の振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの班で取り入れた動きの工夫を整理させる。 ・他の班のダンスを見て気づいたことを書かせる。 ・次回は、サビの部分の振り付けを考えていくことを伝える。

一人1研究授業まとめ

3年保健体育 高岩 友美

1 保健体育科における目指す子ども像

- 大きな号令をかけながら、体操・補強運動などを行い心づくり体づくりを行う。
- 個や集団の課題を考え、それを解決するためのメニューを考えたり、場を考えたり、用具を活用したりする学習活動を設定する。

2 単元名「ダンス（現代的なリズムのダンス）」

本時7時間目

構成の仕方を選んで組み合わせることで、班で動きの工夫を考えることができる。



3 つなぎ教材の活用と成果

・B復習型

単元の前半で学習したダンスを踊ることで、全身で弾んで踊ったり、隊形移動に取り入れた工夫を確認したりさせる。

<成果>

- ・単元の前半で学習したダンスは、比較的簡単なステップで構成したものなので、導入で踊ることで、リズムに乗って楽しく踊る雰囲気をつくることができた。
- ・ダンスに抵抗がある生徒でも、まずは全員で同じステップを踏むことで安心して表現できるようにした。
- ・既習のステップを確認することで、新たな曲の中でも活用し、グループ活動で話し合うときに活発に意見が出ていた。

4 課題

- ・班で動きの工夫を考えるための材料が少なく、思いついた動きを試すことができる班と、なかなか動き出せない班ができてしまった。
- ・互いの班の動きを見合う時間は必要だが、運動量の確保が難しくなる。

授業改善に向けて、私はこうします！

昨年度の授業の様子を映像で見せたり、ステップの紹介カードを作ったりと、より主体的に活動が進められるようにする。動きの紹介は、2班で見せ合うときと、動きが良い班を全体で紹介するときと使い分け、運動量を確保していく。

英語科学習指導案(3年2組)

平成30年10月31日(水) 13:50~14:40 (体育館) 指導者 佐藤 真一

A L T Camilla Webber

— (授業改善の視点) —

世界の国や文化を伝え合うために Show and Tell を用いれば、4技能「読む」「聞く」「話す」「書く」を統合した活動になるだろう。

1 題材名 Lesson5 Places to Go, Things to Do (NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

2 考察

(1) 学びのつながり

【学習指導要領における位置】

本題材は、中学校学習指導要領、内容(4)「話すこと【発表】」のイ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」を主な目標とし、単元の半ば(4時間目)に即興で話したことをさらに推敲して単元のまとめとして11時間目に発表できるように題材構成を行う。

【これまでの学び】

小学校6年生では「訪れたい国」について発表し、さまざまな国への興味・関心を高めてきた。また、中学校2年生では「おススメの国」としてクラスメイトに自らが訪れたい国、その理由、そこでしたいことなどについて、スピーチをした。

【ここでの学び】

ここでは、関係代名詞 *that, who, which* を含む文とは、対象となる名詞を最初に出してそれがどういう状態であるかを後から叙述されている文であることを学ぶ。つまり、1文に含まれる情報量が増えるので、その1文から読み取ったり伝えたりする情報量も増える、ということになる。関係代名詞は物事を説明するのに適した文型であり、これを使って「訪れたい国」や「そこでしたいこと」について、これまでより具体的に説明できるようになる。

【このあとの学び】

この後のLesson6では、後置修飾(現在分詞・過去分詞)と関係代名詞を省略する文型を学ぶ。これらは、より口語的な表現であり、さらにスピーチをする力を伸ばすための言語材料である。Lesson5ではさまざまな国についての文化という広い視点からの内容であったが、Lesson6では「アメリカの黒人差別」という一国の当時の社会状況についてのスピーチを理解し、その社会的背景についての理解を深める。そして、その次の単元であるProject2「日本文化を紹介しよう」で自国の文化について詳細に説明することにつなげていく。

【授業中の生徒指導について】

世界のさまざまな国や文化について学ぶ単元であるので、生徒が異文化の多様な価値観を感じ取れるように、ときには日本文化と比較しながら、授業を行う。その過程において、文化間の違いのみならず共通点も発見することで、自らが世界の一員であることを実感し、共生の心や世界についてもっと知ろうとする態度を育む。また、生徒同士でもお互いのことを伝えたり尋ねたりする活動を行うことで、自己存在感を高め、共感的人間関係を育むようにする。

(2) 教材観

本単元では、世界のさまざまな国や文化について関心を高め、単元末には行きたい場所やそこでしたいことなどについてスピーチをする活動を行う。単元末のスピーチがスムーズに行えるように、単元の半ば(第4時)で Show and Tell を行い、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく高めながら、単元の目標(単元構想を参照)を達成できるようにする。

教科書では、Get Part1ではモンゴルの住居ゲル、Get Part2ではアメリカの映画スター・ウォーズ、Get Part3ではケニアの野生動物、USE Read ではブラジル、と紹介されるもののジャンルも多岐にわたり、単元のまとめの時間のスピーチでも、生徒はさまざまな国やジャンルを選択することが予想されることから、できるだけ多様な国や文化を取り上げ、共有しながら単元末のスピーチが充実するように構想を練る。

(3) 生徒の実態 (男子17名 女子17名 計34名)

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

さまざまな行事に取り組んでいく中で、学級内の絆も深まり、それとともに1対1のコミュニケーション活動もよりスムーズに行えるようになってきている。一方、挙手をする生徒が学級内の7～8人に限定されているので、まだ複数の目があるところで英語を話したり、間違っ

た英語を話したりするのをおそれている生徒が存在している。

【表現の能力】

日々の授業中のコミュニケーション活動や学期末のパフォーマンステスト等によって、自己を表現する力は高まってきている。一方、聞き手を意識しながら絵、写真、物語を即興で説明する力は今後の課題である。これを克服するための手立てとしては、単元の前半と後半で1回ずつスピーチを行う活動を取り入れる。Show and Tell の後やスピーチの前には、まとまった文を書く活動も取り入れる。

【理解の能力】

長文を一文一文訳すのではなく、その内容を大まかにつかんだり、要点をまとめたりする活動によって、英文を瞬時に理解する力は高まってきている。本単元で扱う関係代名詞は、対象となる名詞を最初に出して、それがどういう状態であるかを後から叙述するという、英語の発想が強く反映されている文型なので、この発想を早期に理解するよう指導することで、英語を英語で理解する力を伸ばすようになる。

【言語文化への知識・理解】

身近なカタカナ英語への関心は高く、新出単語の導入の際にもカタカナ英語や既習の単語と合わせて紹介することで、知識の定着を図っている。一方、既習の文法の知識を活用し、英文を書く力に課題がある生徒もいるため、英文を書く機会を多くしながら改善していく。

- 3 目標 }
4 評価規準 } 別紙「単元構想」を参照

5 指導方針 ◎学びのつながり ◇つなぎ教材 ※生徒指導3機能

- ・最近では外国の生活の様子を放送するテレビ番組が増えていて、生徒にとっても異国の文化が身近になっているので、さらに関心が高まるような写真や慣習を紹介するようになる。
 - ・小学校の外国語活動では「自分が行ってみたい国」についてスピーチをし、中学校2年生では「おススメの国」を紹介している。本単元の最後には「自分が行ってみたい国とそこでしたいこと」についてスピーチをするが、小野連携型小中一貫校の指導体制を活かして、中学校3年生のスピーチを録画して小学校6年生に見せる。その意義は、中学生にとっては小学生からの学びが現在の学びまでつながっていることを意識することであり、小学生に対しては将来の目標設定ができるようになることである。
 - ・4技能をバランスよく高めるために Show and Tell を活用し、「聞く」「話す」「読む」「書く」を統合した活動になるようにする。
 - ・本時では、前半にグループで協働して準備を行い、後半は自力で Show and Tell に取り組み、ジェスチャーを多用しながら間違いをおそれず、自発的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる機会とする。
 - ・教科書で扱われている題材を、本時で教科書より先に扱うことで、後で教科書を読んだときに異なる表現の仕方に気づき、表現の幅を広げるようにする。
 - ・教科書で扱われている題材について、本時で教科書より先に読むことで、後で教科書を読んだときに内容をつかみやすくする。
 - ・本単元で扱う関係代名詞の基本的役割は、対象となる名詞を最初に出して、それがどういう状態であるかを後から叙述するという、英語の発想によるものであることもふまえ、その語順に慣れるように指導していく。
- ◎ここでの学びでは、関係代名詞 **that, who, which** を学習してきたので、それらを含む本文を導入の場面で振り返り、定着を図ることで、書くことにつながるようにする。
- ◇Q-List (話し手に対しての質問リスト) を活用することで、聞き手は話をよく聞くようになり、話し手は聞き手を意識 (質問を想定) して話すようになる。
- ※クラスメイトのみならず、小学生にスピーチの様子を見てもらうことにより、コミュニティ内の自己存在感を高める。

6 本時の学習

- (1) ねらい Show and Tellを用いてより多くの世界を知り、その説明ができるようになる。
- (2) 準備 プロジェクター、スクリーン、写真、ワークシート
- (3) 展開

☆は評価項目（方法）

学習活動と 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 ◎学びのつながり ◇つなぎ教材 ※生徒指導3機能	ALT
<ul style="list-style-type: none"> ○ALTのShow and Tellを聞いたりやりとりしたりすることで写真について理解する。 ○本時における目標の姿であるALTのShow and Tellを見ることで、コミュニケーション活動に意欲的になる。 	導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTと生徒のやりとりがスムーズにいくように、生徒を支援する。 ○めあてを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真についてShow and Tellで説明する。説明のみではなく、“What do you think?”“Have you been there?”など利き手（生徒）に質問も投げかける。 ◎関係代名詞を含む英文を読み、単元の言語材料を意識させる。
めあて Show and Tellを用いて世界の国や文化を紹介しよう。			
<ul style="list-style-type: none"> ○写真と絵を見てShow and Tellに向けて説明の準備をする。 ○グループ内でShow and Tellをする。 ○話し手は聞き手の質問に興味で答える。 	展開 1 25分	<ul style="list-style-type: none"> ○Show and TellをするためのALTの説明を補足する。 ○グループごとに写真と絵を配布する。 ○グループを解散してShow and Tellをするグループに分かれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○Show and Tellをするための準備の説明をする。 ○机間巡視をして英文を読み取るのを支援する。 ○つまづいている生徒を支援する。
☆グループで読み取った情報を Show and Tell に活用している。（観察およびワークシート）			
<ul style="list-style-type: none"> ○もとの席に戻り、自分で言えた英文をワークシートに書く。 ○グループで英文を教え合いながら、Show and Tellをした写真について説明文を書く。 	まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートにShow and Tellで言えた英文をまとめるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間巡視をしながら英作文についてアドバイスをする。
<ul style="list-style-type: none"> ○10、11時間目にスピーチをするにはどんな情報が新たに必要か考える。 	振り返り 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○10、11時間目には本時の活動をもとにスピーチを行うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業を通しての感想を述べる。

一人1研究授業まとめ

3年英語 佐藤 真一

1 英語科における目指す子ども像

- これまでに身に付けた語彙や文を適切に用いて、自分の思いや考えを意欲的に英語で伝えようとする生徒
- 語句や文の意味・用法を言語活動の中で理解し、繰り返し使う中で正しく表現する力を身に付け、4技能をバランスよく高めていける生徒
- 伝えたいことを自分で選び、ペアやグループの活動で互いのよさを共有しながら、英語でコミュニケーションする楽しさを味わう生徒

2 題材名・単元名「Lesson 5 Places to Go, Things to Do (三省堂3年)」

本時4時間目

Show and Tellを用いてより多くの世界を知り、その説明ができるようになる。

3 つなぎ教材の活用と成果

A 概念導入型型 課題をじっくり

- ① 教科書の内容・題材をワークシートに置き換え、教科書とは違った文で読み取り・発表をすることで実際に教科書を読む前に予備知識を与え、教科書を読んだときにより理解が深まるようにする。
- ② 単元の最後の活動の際に、自分のおすすめの国を紹介するモデル文として振り返らせる。



<成果>

次の時間に教科書を開いたときに「このあいだ読んだ内容だ」などの反応があった。

- ・教科書を読み取り、そのページについての問題を解くと、すべてのパート及び USE Read (長文) での正答率が他の単元よりもよかった。
- ・定期テストに「次の写真の中から1つ選び、英文で説明しなさい。」という問題を出題したところ、10点満点だった生徒が96人中68人でたいへんよい出来だった。
- ・様々な国や文化に対しての関心が高まり、単元末の活動に意欲的に取り組んでいた。

4 課題

- ・低位の生徒は読み取りが十分にできなかった。それを補うグループでの情報共有もグループが大きかったため(5、6人)話し合いが円滑ではなかった。
- ・低位の生徒が読み取りやすくするために、教科書の説明文よりも易しい表現のものも用意すべきだった。

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・導入ではただ聞かせるだけではなく、その後に生徒が行う活動(の手順)を示すことでその後の活動がスムーズになるようにする。
- ・単元のみではなく、1つの授業が終わった後の生徒の理想の(変容した)姿を意識した授業づくりを行っていく。

英語科学習指導案（略案）

平成30年9月25日（火）第5校時 1年2組（教室）
 指導者：山田 章恵 ・ ALT: Camilla Webber

1. 単元名 Lesson 5 Our New Friend

2. 本時のねらい

写真の人について交わされる対話から Who is ~ ? のたずね方と答え方を理解し、ペアで人についてたずねたり答えたりする活動に意欲的に取り組ませる。

3. 展開

	生徒	JTE	ALT
めあてをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○先生からの質問に答えて先生と対話をする。 ○生徒同士で対話をする。 ○【B復習型】 「これは何？誰？クイズ」で、What is this? と Who is this ~? のたずね方と答え方の特徴に気付く。 <p>「これまでの学び」を振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○英語学習の雰囲気をつくる。 ○生徒や ALT に質問をして対話を始める。 ○生徒が話題にしたものを共有させる。 ○What is this? と Who is this ~? とそれらの答え方を板書し、2つのたずね方の文型が同じであることと、物は what で人は who でたずねるという違いに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をして英語学習の雰囲気をつくる。 ○JTE や生徒と対話をする。 ○物や人について3つのヒントを出し、What is this? もしくは Who is this ~? でたずねる。
	<p>めあて 人について「～はだれですか」とたずねたり答えたりしよう</p>		
課題をじっくり	<p>「これは誰？～カメラに紹介編～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真の人について3つのヒントを聞いて、誰のことかを当てる。 <p>「これは誰？～友達に紹介編～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアになり、写真を1枚選ぶ。 ○写真の人について3つのヒントをペアで考える。 ○ペアで互いにクイズを出したり答えたりする。 ○ペアをかえてクイズを出したり答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真の人について3つのヒントを出し、誰のことかを生徒に考えさせる。 ○活動のやり方をモデルを示して説明する。 ○教室を回り、クイズづくりが滞っているペアにヒントを出す。 ○時間で活動を区切る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真の人について、Who is this ~? でたずねる。 ○活動のやり方のモデルを示す。 ○教室を回り、クイズづくりが進んでいるペアを褒める。
	<p>子どもの姿（コミュニケーションへの関心・意欲・態度） 写真の人に関心を持ち、意欲的にクイズを出したり答えたりして、コミュニケーションを楽しんでいる。</p>		
まとめをしっかりと	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の基本本文を発音して確認する。 ○Who is this ~? の意味・用法について自分の言葉でまとめる。 <p>「ここでの学び」をまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに正しく書けているかどうかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに正しく書けているかどうかを確認する。
	<p>まとめ who を使って「～はだれですか」と人についてたずねることができる。</p>		
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○本時を振り返り、自己評価し、次時に向けての課題を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時を振り返らせ、生徒を指名し、取組の様子を共有し、できたことを褒める。 ○次時の見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動を振り返り、褒める。

一人1研究授業のまとめ

1年英語 山田 章恵

1 英語科におけるめざす子ども像

- これまでに身に付けた語彙や文を適切に用いて、思いや考えを意欲的に英語で伝えようとする生徒
- 語句や文の意味や用法を、言語活動の中で理解し、繰り返し使う中で、正しく表現する力を身に付け、4技能バランスよく高めていける生徒
- 伝えたいことを自分で選び、ペアやグループの活動で互いのよさを共有しながら、英語でコミュニケーションする楽しさを味わう生徒

2 題材名 Lesson 5 Our New Friend

本時1時間目 「写真の人について尋ねたり答えたりしよう」

3 つなぎ教材の活用と成果

B 復習型：

既習の What is this? — It's ~ . のやりとりを振り返り、意味や用法を比較しながら、新出の Who is this … ? — He / She is ~ . のやりとりを理解する。

- ・ 3ヒントクイズで、What is this? から Who is this … ? の質問へつなげ、答え方も It is ~ . に加えて He / She is ~ . を導入する。
- ・ 2つのやりとりを黒板で示して比較し、意味や用法を確認する。
- ・ 写真を使って、新出の疑問文と答え方をペアで練習する。
- ・ ペアで、3ヒントクイズをつくる。分かりやすく伝えることを意識してヒントを考える。
- ・ ペア同士で、3ヒントクイズを行い、新出の疑問文と答え方でやりとりをする。



〈成果〉

- ・ 既習の疑問文から新出の疑問文につなげたことで、文の意味や用法の理解の助けになった。
- ・ 小学校の外国語活動から親しんでいる3ヒントクイズの活動にしたことで、活動の説明に時間をとられず、生徒同士の活動に十分な時間を使うことができた。
- ・ ペアやグループによる活動を取り入れたことで、互いに助け合い、英語を使うことにも抵抗なく、楽しくコミュニケーションすることができた。

4 課題

- ・ 既出の基本文と新出の基本文の比較を意識したことで、文法的な説明が多くなってしまった。つながりを意識させながらも、活用の中で理解を深めさせていく手立てが必要である。
- ・ 3ヒントクイズは英語でやりとりをしていたが、それ以外の生徒同士のやりとりの多くは日本語によるものになっている。学年が上がるにつれ、英語でのやりとりが増えるように、支援していきたい。

授業改善に向けて、私はこうします！

小学校の外国語活動で培ってきたものを踏まえて、それらを十分に活用して中学校の英語につなげる。教師と生徒、生徒同士の、英語のやりとりの機会を多く持ち、英語でやりとりできる力を付けさせる。

国語科学習指導案(略案)

平成30年4月24日 第2学年

2年2組(教室) 篠崎 巧

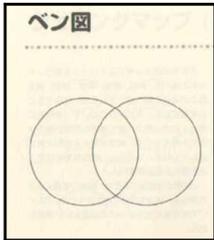
1 単元名

言葉が照らし出す 物語「タオル」 (2年)

2 本時のねらい

作品中の「タオル」の役割や題名に込められた意図を考える事を通して、「最後にタオルを頭に巻いたこと」の意味について考えることができる。

3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてをつかむ ・「学びのつながりブック」を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ・「タオル」の描写されている部分を音読する。 	<p style="text-align: center;">「これまでの学び」の振り返り</p> <p>※「題名」であり、物語の中で重要な場面で用いられている「タオル」に着目し、作者が「タオル」にどのような役割を与えているのか考えるというめあてをつかめるようにする。</p>
課題をこころ	<ul style="list-style-type: none"> ○少年、祖父のそれぞれにとって「タオル」がどのような存在かを書く。 ・ノートを上段、下段に分け少年と祖父を対比・整理しながら、どのような存在かをまとめる。 ○班で【思考ツール：ベン図】を作成し、作品全体で「タオル」がどのような役割を果たしているかを考える。 ・片方の円に祖父、もう片方の円に少年にとって「タオル」がどのような存在かを書き、それをもとに中心に作品における「タオル」の役割を考え記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○祖父、少年にとって「タオル」を巻くことにどのような意味が込められているのかを考えるよう促す。 ○文章中から抜き出したものは黒字、自分で考えた役割は赤字で書くように指示する。 ※考えがうかばない生徒には、なぜタオルを巻いた少年が涙を流したのかを考えるよう促す。 ○少年、祖父にとっての役割の共通点を考えるのではなく、祖父の思いを踏まえて少年にとってどのような役割をはたしたかを考えられるようにする。 ※少年の「涙」から「かすかな潮のにおい」がしたことが何を暗示していたのかを考えたことを振り返り、本文中に書かれていない役割を考えられるようにする。 <p style="text-align: center;">「これまでの学び」を活用した問題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長が班の意見を発表し、意見を共有する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○作者がどのような思いを込めて「タオル」という題名にしたのかを想像して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少年にとっての「タオル」を巻いたことがどのようなことを意味するのかを考えさせ、作者がどのようなことを読者に伝えたいと思っているのかを想像して書くよう促す。 ○めあてに対するまとめをする。 ・自分の考えが書けた生徒が発表し、全体で意見を共有する。
	自分の言葉による「ここでの学び」のまとめ	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○「タオル」に着目して読んだことによってどのような読みの深まりがあったかを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し出てくる「特別な言葉」や「題名」に着目して読むと、「登場人物の言動」の意味について深く考えられるということを振り返る。 ※2年生で学習する物語の題名を紹介し、今後の学習でも題名を意識しながら読むことができるようにする。 <p style="text-align: center;">「ここでの学び」の振り返り</p>

一人1研究授業まとめ

2年国語 篠崎 巧

1 国語科における目指す子ども像

- 教材に主体的に関わり、教材の内容や表現について自分の考えを持つことができる生徒。
- 自分の考えを、根拠を明らかにして、わかりやすく表現できる生徒。
- さまざまな意見をもとに教材を振り返り、自分の考えをさらに深めていける生徒。

2 言葉が照らし出す 物語「タオル」 本時5時間目

3 つなぎ教材の活用と成果

・B 復習型 学習過程：めあてをはっきり

小学校から継続して使用している「学びのつながりブック」を活用し、本時の授業を通してどんな力が身に付くかを明確にすることで「めあて」に対して主体的に取り組むことができるようにする。小学校の学習内容と比較し、小学校の身に付けたどのような力を活用し、どのような力を伸ばしていくのかを実感をもってつかめるようにする。

<成果>

- ・「特別な言葉に着目する」という4年次の学習内容を振り返り、それを活用することで読みを深めていくことができた。題名である「タオル」に込められた意味や、主人公にとって「タオル」がどのような役割を果たしているのか、登場人物がタオルに込めた意味など、多角的に読みを深めていくことができた。
- ・「課題をじっくり」の場面では班ごとの話し合い活動が深まるよう、【思考ツール：ベン図】を使用した。お互いの意見を紹介するだけでなく、自分や友達の意見を客観的に見つめ直し、話し合いを深めていくことができた



4 課題

- ・本時では「学びのつながりブック」を全体で読み、小学校のときの学習をもとに題名「タオル」に込められた意味について考えた。生徒が、教師主導ではなく、自発的に「学びのつながりブック」を活用できるような「めあて」や発問作りが今後の課題である。

授業改善に向けて、私はこうします！

- 「学びのつながりブック」の継続、中2のページを充実させる。
- 「学びのつながりブック」の日常的な活用。
- 「学びのつながりブック」を自発的に活用できる発問、めあての設定に努める。

英語科学習指導案(略案)

平成30年12月 4日

2校時 5組

2年5組(6組教室)

須藤 ゆう子

1 題材名

Lesson7 Presentation

2 本時のねらい

先生方へのインタビュー結果についての会話を通して、長い形容詞を用いた比較の表現に慣れさせる。

3 展開

	生徒	教師
めあてをほしめろ	<p>○本時のめあてをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ more ~の形で比較級になる長い形容詞を復習する。 ・ どんな英文を前回学習したかを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短い形容詞と長い形容詞の比較級の形を思い出させる。 ・ カードを用いて、more ~の形で比較級になる長い形容詞を提示することによって復習させる。 ・ ALTの正しい発音を聞かせ復唱させる。
	<p>めあて 先生方へのインタビュー結果を知ろう！</p> <p>〈“more ~ than …”を用いた英文を聞いたり話したりしよう！〉</p>	
課題をこころ	<p>○先生方へのインタビュー結果について、会話する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師とALTのモデル会話を聞き、どのように会話すればよいかを知る。 ・ ALT及び自分以外の2人の生徒との問答を通して、先生方へのインタビュー結果を知る。 	<p>◇B復習型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つなぎ教材“Let's Talk!”を見ながら、今回の会話で使えるような表現[I think, That's right. 復唱など]を確認させる。 ・ 会話で必ず話す英文を確認し、それ以外にも指定された時間内は会話を続けられるように、モデルを示す。 ・ 教師はK君に付き添いながら必要な支援を行う。 ・ 生徒がわかったことをメモできるようにワークシートに記入させる。
	<p>会話例</p> <p>A: I asked Ms Miyamura. Which is more ~(長い形容詞) for her, A or B? B: I think A is more ~(長い形容詞) than B for her. A: That's right. / That's not right. A is more ~(長い形容詞) than B for her. B: Do you know more about her? A: Yes. . . . (会話を続ける)</p>	
		[教師へのインタビューについて]
		・ 前時に質問したいことを考えて書かせ、本時までには休み時間等を用いてインタビューさせておく。
まとめ	<p>○会話をしてわかったことをワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 綴りを知らない予想される語句についてはワークシートに載せておく。 ・ 記入が終わったら、教師またはALTのチェックを受けるように伝えておく。
	<p>記入例 A is more ~(長い形容詞) than B for Ms Miyamura.</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人の学力に応じて、2文～4文を記入させる。 ・ 教師はK君に付き添いながら必要な支援を行う。
振り返り	<p>○ Which is more ~(長い形容詞) for you?の質問に対する自分の答えを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒にとって身近なことについての質問文にする。 ・ 2つの質問文のうち、一文は名詞、一文は動名詞を比較する英文にする。
	<p>記入例 A is more ~(長い形容詞) than B for me.</p>	
	<p>○時間のある生徒は、長い形容詞の比較級を用いて自分のことを表現する英文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話で用いた語句、それ以外の語句のどちらで英文を書いてよいことを伝える。 ・ 表現したいことを伝える語句がわからない場合は支援する。

一人1研究授業まとめ

2年（特別支援学級）英語 須藤 ゆう子

1 英語科における目指す子ども像

- これまでに身に付けた語彙や文を適切に用いて、自分の思いや考えを意欲的に英語で伝えようとする生徒
- 語句や文の意味・用法を言語活動の中で理解し、繰り返し使う中で正しく表現する力を身に付け、4技能をバランスよく高めていける生徒
- 伝えたいことを自分で選び、ペアやグループの活動で互いのよさを共有しながら、英語でコミュニケーションする楽しさを味わう生徒

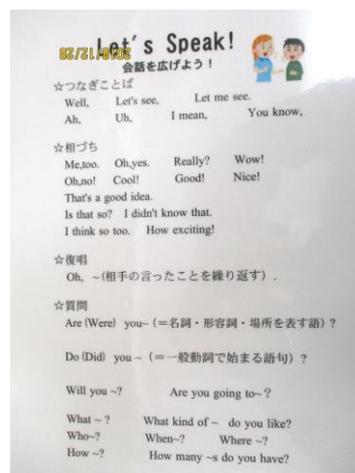
2 題材名・単元名「Lesson7 Presentation」

本時4時間目 先生方へのインタビュー結果についての会話を通して、長い形容詞を用いた比較の表現に慣れる

3 つなぎ教材の活用と成果

・B復習型 課題をじっくり

- ・つなぎ教材“Let's Talk!”を見ながら、今回の会話で使えるような表現[I think, That's right. 復唱など]を確認させる。



<成果>

- ・本題材の newly introduced conversational items, in addition to the comparison expressions, “I think, That's right. 復唱など” were used in the conversation by using the linking textbook, and it was confirmed that it was possible to expand the conversation by using such expressions.
- ・By using the linking textbook and having a conversation, the range of expressions expanded, and it was possible to have a conversation in a form close to real life.

4 課題

- ・今回は、「つなぎ教材」を見ながら会話する場面が多かったため、会話の進行が遅れることがあった。
- ・繰り返し使う「つなぎ教材」の耐性を考えて、ラミネート加工をしたものを使用しているために、生徒が加筆することができなかった。

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・会話を広げるための教材である“Let's Talk!”については、会話の事前確認の利用に限定しても会話で使えるぐらいまでに繰り返し使っていきたいと考える。
- ・生徒自身が主体的に会話を広げる表現を見つけたり気付いたりしたときに、加筆できる用紙も用意できれば、生徒がより意欲的に会話表現を習得することにつながると思う。

数 学 科 学 習 指 導 案 (略案)

平成30年11月26日(月) 第5校時
2年3組 少人数指導基礎コース 男子9名女子7名
指導者 清水克也

【授業改善の視点】

証明の流れを口頭で繰り返し練習させたり、それをもとにノートに表記させたりする学習活動を行うことは、基礎コースの生徒が証明の基本の型を身に付け、論理的に思考することのよさ実感することに有効であるか。

1 単元名 「4章 平行と合同」

2 指導観

(1) 本時の授業に対する基本的な考え方

本学年の生徒の数学の学力は、1年時より二山分布の傾向を示していた。授業の質をできる限り個に応じたものにするため、1年2学期より、1学級を2クラスの習熟度別少人数指導を行なってきた。しかし、少人数クラス分けした基礎コースの中でも、小学校3年程度の筆算ができない生徒や九九をすらすら言うことができない生徒が2～3名おり、数学の学習内容を理解させることや内容を定着させることに苦慮してきた。

そこで、本単元では、じっくり考えて進めていく標準コースと口頭練習を中心に証明の形式を身に付けていく基礎コースというように、より生徒の実態に即した指導を進めることにより、それぞれのクラスの学習の充実を図ることとした。

基礎コースでは、学習内容について小学校の内容との関連や単元全体のつながりを常に連想できるように、小学校の教科書を提示したり、掲示物や口頭の反復練習で定着を図ったり、授業の中でできるだけ定着させる工夫をしていく。

また、数学部では、今後の授業改善に向けて、以下の2点に力を入れていくことになった。

① 子供主体の授業作り

生徒の言葉でまとめをさせる、生徒の言葉で導入の復習をさせるなど生徒の発言を意図的にさせる。

② 家庭学習

授業の最後に本時の学習内容の定着を図るプリントを配布し、次の時間に答え合わせをするよう習慣づける。あわせて、その日に習った内容をワークで復習させる。

(2) 指導方針 (◎…学びのつながり、☆…やる気の生徒指導、・…その他)

◎既習の図形の性質を、毎時間生徒に言わせることで定着を図る。また、小学校の教科書を提示して中学校の内容と比較したり、図形の基本事項を教室の壁に掲示し常に見られるようにしたりして、学習内容のつながりを意識させる。

☆授業の導入では、前時の内容の復習をフラッシュカードにより生徒に説明させたり、宿題の解答を説明させたりして、自分から取り組もうとする意欲を高める。

☆生徒同士で説明し合う場面ではまず自分の考えを持たせ、そして2人組になって相手に口頭で証明を伝える場面を設定する。次に、多くの生徒同士が互いに教え合い理解を深められるような段階を設ける。証明を言うときには、生徒が抵抗なく取り組める形式が決まっている簡単な問題を中心に行ったり、記録表を設けて複数回説明をすることに対する意欲付けをおこなったりする。

・図形の説明に抵抗感がなくなるように、辺や角の相等関係を表す一般的な記号の他に「×・△」等の印で考えることや図を指さしながらの説明をすることも認め、生徒が抵抗なく説明できるようにさせる。

・説明問題のヒントとなるように、数値を用いた計算問題等で一般性を予測させてから、口頭説明に入るなど、生徒の実態に合った課題解決ができるように工夫する。

・図形学習に際しての板書の約束として次のようにする。「青色は仮定」「赤色は結論」「黄色は既習事項および明らかなことがら」として、色分けして図に印を付けることとする。

3 指導計画【基礎コース用（三角形の合同にかかわる証明部分のみ抜粋）◎…学びのつながり】

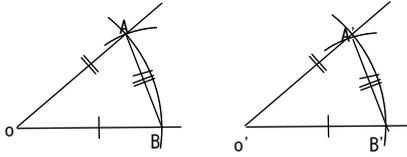
時間	ねらいと主な学習内容	指導上の留意点
1	<p>○合同な図形の意味や性質を理解することができる。</p> <p>◎小学校の教科書5年生P71の内容で、あたえられた三角形と合同に書く方法を復習する。</p>	<p>○対応する角や対応する線分がそれぞれ等しいことや対応順にかくこと、角の呼び方2種類の確認をする。</p> <p>◎3つの辺、3つの角が与えられた三角形から、3つの要素を選んで作図する方法を確認する。</p>
2	<p>◎前時の小学校の復習を合同な三角形を判定する方法として、三角形の合同条件を定義する。</p> <p>○辺や角の数値の入った三角形について、合同条件で合同を判定できる。</p>	<p>○その間の角やその両端の角のように場所が指定されているのは、合同にならない形を作らないことであることも確認する。</p> <p>○対応順で答えるように意識させる。</p>
3	<p>○等しい印のついた三角形について、合同条件から判断する。</p> <p>○証明の基本形式を知り、口頭練習する。</p>	<p>○印のついている辺や角以外に、等しい理由を付けられる辺や角がないか考えさせる。</p> <p>○基本の流れが言えるように繰り返し練習する。</p>
4 ・ 5	<p>○三角形の合同条件を用いて既習の作図方法が正しいことを証明することができる。</p> <p>(第4時) ◎角の二等分線の作図 (第5時) 等しい角の作図</p>	<p>◎授業の導入で証明の基本形式の口頭練習を5分間程度おこなってから、本時の証明に入る。</p> <p>◎どの長さや角度を等しくとった結果作図できたか、根拠を基にして証明することで、作図の持つ意味を十分理解させる。</p>
6	<p>○仮定、結論の定義をおこない、文章から仮定と結論を読み取ることができる。</p> <p>◎前時まで証明した内容について、仮定、結論を見つけられるようにする。</p>	<p>○文章から仮定、結論を読み取る。</p> <p>○証明とは、仮定と根拠になる事柄を基にして説明し、結論に到達すればよいのであることを理解させる。</p>
7 本 時	<p>○簡単な図形の性質を、三角形の合同条件や既習事項をもとに証明することができる。</p>	<p>○証明したい図形を、順次指示しながらかせ、等しい辺や平行になる線分を確認させる。</p> <p>◎合同と思われる三角形を探させ、どの合同条件にあてはまるか考え、合同の証明を口頭で言うことで証明を記述しやすくする。</p> <p>○根拠は括弧書きでかせ、証明の流れを重視する。</p>
8	<p>○基本の問題を行い単元のまとめを行う。</p>	<p>◎三角形の合同条件を中心にして学習を整理する。</p>

4 本時の展開

(1)ねらい

等しい角を作図する方法が正しいことを三角形の合同条件を利用して証明することができる。

(2)展開

	学習活動および 予想される生徒の反応	指導上の留意点 ◎…学びのつながり（本単元は主に「復習型」） ☆やる気の生徒指導
めあてをはっきり	<p>○前時の復習と口頭で図形既習事項を反復練習することより、定着させる。</p> <p>○本時の学習課題を確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>等しい角を作図する方法が正しいことを証明しよう</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> ・作図の際コンパスで等しくしたところをさがす ・$AB = A'B'$と言うがを直線でもむすぶことはできない。 ・$\angle O'$は45°を測ったのではないが45°になった。 	<p>◎既習の図形の性質を定着させるため、フラッシュカードを用いて復習する。三角形の合同条件は丁寧に確認し、証明の基本の流れも言う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これまでの学びの振り返り 既習事項の定着</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・証明の口頭練習を行う。 ・生徒の図に極端な違いが出ないようにすることと生徒が合同を見つけやすい形とするため、$\angle O = 45^\circ$を測らせてからコンパスと定規で作図させる。 ・作図できた生徒には、どこを等しくとったのか言えるように指示する。 ・作図で等しく取ったところをコンパスをあてながら、青色で等しい印を付けさせる。その際 $OA=OB$ ではあるが、合同条件「3組の辺」を意識させるため、あえて違う印を付けさせる。 ・分度器で測ってかいたわけではないが$\angle O' = 45^\circ$になっていることを分度器で確認させ、赤色で等しい印をつけさせる。
課題をじっくり	<p>○口頭でお互いに証明を説明し合う</p> <p>①考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この辺とこの辺が同じ」 ・「コンパスでかいたから OB と $O'B'$が等しい」 ・「仮定だから $AB=A'B'$」 ・「合同条件は3辺で合同」等 <p>②正式な証明の言い方を名された生徒が答える。</p> <p>③席を立てて口頭で証明練習をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>口頭練習による内容の理解と定着</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・$\triangle OAB$ と $\triangle O'A'B'$の合同をいえば、等しい角の作図が正しいといえそうであること及び合同条件は「3組の辺」になりそうであることをおさえる。 ☆うまく言えない生徒には、教師または隣の生徒が助言しながら言わせる。すらすら言えなくても証明の流れが理解できたことや内容を理解できたことを賞賛し、学習意欲を高める。
まとめをしっかりと	<p>○口頭で述べた証明を文章化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自ノートに証明を書く。 ・書き上がった生徒が、積極的に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭練習した証明をノートに書かせる際は、三角形の合同条件を利用した証明の流れを重視して、根拠は括弧書きで補助的に付けるにとどめる。 ・1行ずつ生徒に発表させ、全体で確認共有する。
振り返り	<p>○まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時と証明の流れが同じであることや本時の証明で気づいたことなどを自分の言葉で書く。 	<p>◎等しい角の作図の証明の流れは、合同と思われる三角形を選び、合同条件をそろえ、合同であることをいう。その結果、等しい部分ができるという流れであることを書かせるまとめさせる。</p>

一人1研究授業のまとめ

2年数学 清水 克也

1 数学科における目指す子ども像

- 数量や図形などについて基礎的な概念・原理を理解し、事象を数学的に表現・処理できる生徒。
- 数学を活用し事象を論理的に考察できる生徒。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを感じ、数学を生活や学習に生かそうとする生徒。

2 単元名「平行と合同」 本時7時間目

ねらい「等しい角を作図する方法が正しいことを三角形の合同条件を利用して証明することができる。」を達成するために以下のような方策を行った。

- ・授業の導入では、図形の基本事項をフラッシュカードにより生徒に説明させたり、宿題の解答を説明させたりして、自分から取り組もうとする意欲を高めた。
- ・生徒同士で説明し合う場面ではまず自分の考えを持たせ、そして2人組になって相手に口頭で証明を伝える場面を設定した。次に、多くの生徒同士が互いに教え合い理解を深められるような段階を設けた。証明を言うときには、生徒が抵抗なく取り組める形式が決まっている簡単な問題を中心に行ったり、記録表を設けて複数回説明をすることに対する意欲付けをおこなったりした。

3 つなぎ教材の活用と成果

○B復習型

単元全体のつながり、および、小学校の図形とのつながりを、毎時間基本事項のフラッシュカードで口頭で練習することで、常に意識させることができるとともに内容を定着させる。

〈成果〉

- ・図形の基本事項をしっかりと覚えることができる生徒が増えた。
- ・証明を書くことに対する抵抗感を無くすことができ、基本的な証明の流れを言って書けるようになった。

証明カレーライスをお客に出そう!

①お皿を用意… 2つの三角形を選ぶ

②

{	ご飯	{	等しい
	カレー …		辺や角を3つ
	福神漬け		集める

③本日の味付… 合同条件は〇〇です

④さあ食べて… 合同になりました

⑤感想を一言… 〇と□が等しいです

証明の流れをイメージさせる工夫

4 課題

- 下位群の生徒には、証明を形式的に言えることがプラスの面である反面、根拠を深く考えずに、等しい辺や角をかってに言うてしまうことがある。

授業改善に向けて、私はこうします!

分かることできることを重視しつつも、単元全体を通して、じっくり考える場면을意図的に計画して、数学を活用し事象を論理的に考察できる生徒を目指す。

理 科 学 習 指 導 案 (6 年 3 組)

平成30年10月23日 (火) 第5校時 (第1理科室) 指導者 西井 寛

〈授業改善の視点〉

小グループ(2人1実験)で実験する機会を増やしたり、気付きを促すつなぎ教材を準備したりできれば、実験技能に習熟するとともに、対話的な学びを行って、根拠をもとにして考察できるようになるであろう。

1. 単元名 8章 水よう液の性質

2. 考 察

(1) 学びのつながり

本単元は、小学校理科学習指導要領 第6学年の内容「A 物質・エネルギー (2) 水溶液の性質」を、「水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して」指導することとしている。

児童は、これまでに、3学年では、物は形が変わっても重さは変わらないこと、物は体積が同じでも重さは違うことがあることについて学習してきた。4学年では、圧されたときの空気と水の体積変化、温度による体積変化を学習している。5学年では、物が水に溶ける量や様子に着目して水の温度や量などの条件を制御しながら、物の溶け方に規則性を調べる学習してきた。

ここでは、水溶液を水に溶けていて「リトマス紙を変化させるもの」、「気体として溶けているもの」、「金属を変化させるもの」として質的・実体的に扱う。しかし、あくまで粒などのモデル化にはこだわらず、このあとで学習する中学校第1学年の状態変化における粒子のモデル化につなげられるようにする。

「粒子」領域で見る「学びのつながり」は、5学年から、水の中に溶けたものとして粒子の存在に気付かせ、6学年の物の燃え方で空気中の酸素と二酸化炭素を粒として表現する。ここでは、塩酸や水素を深く扱わないために、水溶液の中の金属や気体、塩酸に溶けた金属の粒を□や○、△で表す程度にとどめて、目では見えないが実体として存在する粒として扱いながら粒子の見方を養っていく。つまり、質的・実体的な見方としては、水溶液ごとに違う性質があるのは溶けている粒が違うこと、水に溶けていた気体や固体の粒を再び取り出せること、金属がちがう粒に変わることを捉えさせる。

生徒指導上の配慮として、考察を書くことに苦手意識をもっている児童のために、予想や考察の場面では、自分の考えをノートにしっかり書かせる時間を設定することによって自己決定力を育てる。また、できるだけ机間指導をしてヒントを与えたり、形成評価をしたりすることによって自己存在感を養う。そして、グループで協力して実験準備したり、教え合ったりすることで、共感的人間関係を築かせるようにする。

(2) 教材観

資質・能力の(1)理解と技能では、「(ア) 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。」、「(イ) 水溶液には、気体が溶けているものがあること。」、「(ウ) 水溶液には、金属を変化させているものがあること。」を指導する。そのために、いろいろな水溶液の性質や変化に関してリトマス紙を用いて調べ、水溶液は酸性、中性、アルカリ性の3つに仲間分けできることや、水溶液を振り動かしたり、加熱して蒸発させたり、金属と反応させたりして、水溶液には気体が溶けているものがあること、金属を変化させるものがあることなどを実験を通して捉えられるようにする。

資質・能力の(2)問題解決の能力では、「溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えを作り出し、表現すること。」を指導する。そのために、6種類の水溶液を酸性・アルカリ性・中性の3つにリトマス紙を使って分類整理する力を身に付けさせる。塩酸や水酸化ナトリウム水溶液は児童にとって初めてのものだが、今後頻繁に扱うことになる薬品であり、安全で正確な実験を行う上で必要な「薬品」の扱い方を身に付けるのに適した水

溶液である。こうした水溶液の性質とその働きについての見方や考え方をもてるようにする。

資質・能力の(3) 主体的に問題解決しようとする態度では、追究の過程で自分の学習活動を振り返り、意味付けをしたり、身に付けた資質・能力を自覚したりするとともに、再度自然の事物・現象や日常生活を見直し、学習内容を深く理解したり、新しい問題を見いだしたりする。食塩水と石灰水は今までの学習に出てきたものであり、炭酸水は炭酸飲料として日常的に飲み、見聞きしているものである。また、洗剤など身近な水溶液についても調べる活動を取り入れることにより、理科の学習と日常生活をつなげて考える姿勢を育むとともに、実感を伴った理解につなげられる。興味・関心・意欲を高めて、主体的に家庭生活につなげたり、理科自由研究で応募したりして、水溶液の性質や働きを多面的に追求する能力や、日常生活に見られる水溶液に興味・関心をもって見直す態度を育てることができる。

(3) 児童の実態（男子16名、女子16名、合計32名）

<省略>

3 目 標

いろいろな水溶液の性質や金属を変化させる様子について興味・関心をもって追究する活動を通して、水溶液の性質について推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、水溶液の性質や働きについての見方や考え方をもち、もつことができるようにする。

4 評価規準

(1) 知識及び技能

実験や観察を適切に行って、水溶液には、酸性、アルカリ性、中性のものがあることや気体が溶けているものがあること、金属を変化させるものがあることを理解している。

(2) 思考力・判断力・表現力

水溶液の性質や働きについて予想や仮説をもち、推論しながら追究し、表現している。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

いろいろな水溶液の性質や溶けている物及び金属を変化させる様子に興味・関心をもち、自ら水溶液の性質や働きを調べようとしている。

5 指導方針

◎学びのつながり、※授業中の生徒指導3機能を示す。

※問題解決の能力を高めるために、めあてを提示して、問題解決的な学習を毎時間行うことで結果から考察を自分の力で導き出せるようにする。特に、予想や考察を行う場面では個別あるいはペアの学習形態をとり（課題をじっくり）、一人一人が考え、まとめ、記入する場面を多くつくっていく（自己決定）。そして、ノートの記録をできるだけその場で評価していくようにする（自己存在感）。また、2人で1実験できる体制を整えることで、主体的に取り組ませながら、技能の習得を図っていく（自己存在感）。

※対話的で深い学びをさせるために、調べたことを文章や図に表し、それを根拠に考察させていくことを大切にしたい。班4人よりも少ない2人のペアで予想や考察をさせることにより、気軽に話し合い、自信をもって記録できるようにする（共感的な人間関係）。

◎粒子的な見方を育てられるように、次のような学習過程で概念形成を図っていく。まず、「ふれる」過程では、6つ水溶液の性質を比較させることで、異なる性質を示すのは水に溶けている物質によるものであることを実体的に理解させる。「追究する」過程では、気体のように目に見えない物質も水の中に溶けて存在することを理解させる。5年生の学習を振り返りながら小さな粒としての存在に実体的に気づかせる。さらに、固い金属が塩酸に溶けて見えなくなっても存在し続け、再び違う粒として取り出せることを実体的に捉えさせる。「まとめる」過程では、中学校の学習につなげられるように、粒子で表現したり、濃度の計算問題をしたたりして、水溶液の濃さについて粒で考えられるように練習する。

◎小中一貫の系統で考えると、中学校の分子モデルに結びつくように、4学年から気体や水溶液を粒で統一して表現して指導する必要があるかもしれない。しかし、水溶液の定義が曖昧だけでなく、「透き通った」とか、「ちらばる」などの表現で水溶液を表わせる児童が少ないことを考えると、段階的に図にして表現していくのが望ましい。この単元では、アルミニ

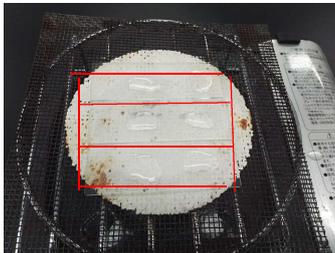
ウム粒子が塩酸の中に入っていく図を描くことはできるが、塩化水素の中の水素が気体になって出て行くことを扱うことができない。あくまで図で表現する場合でも、□の金属と違う性質を持つ△の物質に変化したものとしてとどめることにした。

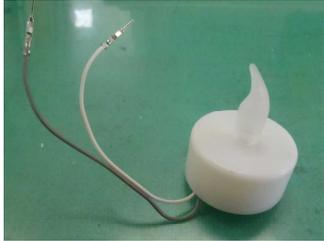
◎これまでの学習や実態から、理解するのに壁があると思われる箇所は、温度を上げると溶けやすくなったのに、二酸化炭素は温めると溶けられなくなって気体になって出てくることや、特定の物質ではなく別のもの変わったと表現することなどである。考察するための根拠を挙げやすいように、「つなぎ教材」として、系統表を参考にして既習事項の掲示物を提示したり、ヒントカードとして用意したりできるようにする。また、理解を確かなものにするためのつなぎ教材として、宿題プリントやワークシートを準備する。

※できた子を待たせない指導として、理由を考えさせたり、班の中で説明させたり、次の課題を準備させたりする。

- ・加熱実験や器具の扱いでは、実験ごとの注意事項を徹底させ、基本操作を習得させるとともに、事故防止・試薬と廃棄物の扱いに留意する。

6 指導・評価計画 (11時間予定の9時間目) ◎学びのつながりを示す

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価項目等
ふれる	1	1 酸性・中性・アルカリ性の水よう液 ○いろいろな水溶液を区別するにはどうすればよいか、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・色、におい、リトマス紙などを使って、水溶液の性質を調べる。  <p>6つの水溶液を簡単に比較実験できる工夫 (製氷トレイを半分に切断し、水溶液6個の酸性・アルカリ性を同時に調べる。ガラス棒代わりに楊枝を使用する。2人で1実験。)</p>	<p>【主体的態度】 ○いろいろな水溶液の性質に興味・関心をもち、自ら水溶液を区別しようとしている。(行動観察・発言分析)</p> <p>【知識・技能】 ○リトマス紙を適切に使用し、安全に水溶液を区別している。(行動観察・記録分析)</p> <p>【思考・判断・表現】 ○水溶液は、酸性、アルカリ性及び中性の3種類に分けることができることを表でまとめている。(記録分析)</p>
	2	○リトマス紙の使い方と薬品の扱い方、実験の注意を知る。		<p>【主体的態度】 ○水溶液とムラサキキャベツ液の性質を利用し、自ら身の回りにある水溶液を調べようとしている。(行動観察)</p>
	3	○リトマス紙を使って、水溶液を酸性、中性、アルカリ性に分ける。		
	4	○やってみよう「ムラサキキャベツ液で調べてみよう」を行う。		
追 究 す る	5	2 気体がとけている水よう液 ○気体が溶けているものは水を蒸発させても何も出てこないことを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ◎溶けていた物が固体や気体として出てくることから、溶けている状態を考える。 	<p>【知識・技能】 ○水溶液には、気体が溶けているものがあることを理解している。(発言分析・記述分析)</p>
	6	○炭酸水を温めたり、振ってみたりして気体が溶けていることを知り、炭酸水を作ってみる。	<p>1つのプレパラートに2つの水溶液をたらすことによって、合計6つの水溶液の蒸発を調べる工夫</p>	<p>【主体的態度】 ○水溶液の性質やはたらきを適用し、身の回りにある水溶液を見直そうとしている。(行動観察・発言分析)</p>
	7	3 金属をとかす水よう液 ○塩酸にアルミニウムや鉄を入れ、金属がどうなるか調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ○塩酸に、アルミニウムと鉄を入れ、ほぼ同時に水素が発生するように調整しておく。 ○塩酸にアルミニウムが溶 	<p>【知識・技能】 ○水溶液に金属を入れると泡を出して溶けることを理解する。(発言分析・記述分析)</p>
8	○塩酸に溶けた金属がどうなったか、予想する。	<p>【思考・判断・表現】</p>		

9 本時	○塩酸に金属が溶けた液の中に、アルミニウムなどの金属があるか話し合う。	けた液を蒸発させ、出てきた物の性質を調べる。	○出てきた泡の正体を考えながら、金属の行方を予想する。 【思考・判断・表現】 ○水溶液に入れた金属の変化を調べ、その結果を推論している。〈行動観察・記述分析〉 【主体的態度】 ○水酸化ナトリウムはアルミニウムをとかして気体を発生することを主体的に調べている。〈行動分析・記述分析〉
	10 ○やってみよう「水酸化ナトリウムの水よう液に、アルミニウムや鉄を入れてみよう」		
まとめ	11 ◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」を行う。	金属とできた物質の導電性を調べる工夫	【知識・技能】 ○水溶液の性質を振り返る。〈記述分析〉

7 本時の学習

(1) ねらい

金属を溶かした塩酸を加熱して出てきた物質が、もとの金属であるかどうかを調べる活動を通して、金属は塩酸に溶けて別の物質に変わったことを根拠をもとに考えている。

(2) 準備

塩酸に溶けたアルミニウムと鉄の水溶液、アルミニウムと鉄の金属片、加熱器具、スライドガラス、自作導通チェッカー、保護めがね

(3) 展開

学習活動と予想される児童の反応	時間	指導上の留意点 ◎学びのつながり、※授業中の生徒指導3機能
1 本時のめあてをつかむ。	2	○本時のめあてと前時に予想した結果を提示し、めあてを再確認する。【めあてをしっかりと】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて</div> 塩酸にとけた金属はどうなったか		
2 予想を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・あわになって出ていったのだから、金属はもうなくなっている。 ・炭酸水や塩酸のように、気体になって金属はなくなってしまうんじゃないかな。 ・食塩のように金属は残っている。 ・色が変わったのだから、金属は水にとけている。 </div>	3	※自分の予想が発表者のどれになるかを考え、根拠を持てるようにする。【じっくり考える】。(自己決定) ◎これまで学習した次の内容を、つなぎ教材として、系統表を参考にして提示できるように準備しておき、意見が出ないときに気づきを促せるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 鉄だけは磁石がつくこと（3年）、金属は電流を流すこと（4年）、食塩が水にとけても重さは変わらないこと（5年）、だ液がデンプンを違う物質に変えること（6年）、水を蒸発させて溶けている物を取り出したこと（6年）、金属は塩酸に泡を出してとけること（6年） </div>
3 アルミニウムと鉄が溶けた水溶液を数滴、スライドガラスに取り、加熱する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・白い粉が出てきたぞ。 </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・水を蒸発させる方法だけを気付かせてから実験方法の説明をする。加熱後、冷ますのに時間がかかるので、その時に結果表をノートに記録させる。

- ・アルミニウムや鉄とちがうな。
- ・あわになって出ていかない。
- ・黄色くなったぞ。

4 蒸発させたものを観察し、もとの金属と比較する。

- ・粉だから金属と違うな。
- ・電流が流れないぞ。
- ・水にとけたぞ。

5 塩酸にとけて出てきた物質で共通していることを友達と話し合う。

6 結果からわかったことをノートに記入させ、クラス全体で交流する。

○加熱の仕方を確認し、技能を身に付けさせる。
特に、蒸発させるときは、加熱しすぎると、発生した塩素で黄色くなったり、水に溶けない酸化アルミニウムになったり、スライドガラスが割れたりするので、弱火で半分蒸発するまで加熱し、後は余熱で蒸発させる。ガラス棒で伸ばすようにスライドガラスにのせる。

	色とつや	電流	水に
アルミニウムがとけたもの	白い つやなし	流れない	とけた
鉄がとけたもの	白い(緑) つやなし	流れない	とけた

※2人1実験をすることにより、一人一人の作業量を確保するとともに、話しやすい雰囲気の中で協力して結果を導かせる。(自己存在感)

○色とつや、電流、水へのとけ方を観察させ、結果をノートに記入する。

○グループごとの結果を紹介し、共通理解を図る。

○複線型の指導として、すぐに結果を導けた児童には、ノートに記録させる。

5 ※自分の考えを隣の児童と交流する場を設け、自分の考えを確かなものにするとともに、つまづいている児童には他の児童の考えを参考にさせる。(共感的な人間関係)

10 ○予想との違いを明確にできるように、教卓に集めて比較させながら意見交流をする。

【まとめをしっかり】

◎「違うものになる」という表現が出なければ、だ液の働きと同じように表現すればよいことを知らせる。

わかったこと 塩酸にとけた金属は、違うものになった。
理由は、金属の性質をもっていないから。

【思考・表現】

塩酸に溶けていた金属が別の物質に変化していることを説明することができる。(記述分析)

7 本時の学習を振り返る。
○取り出した粉を塩酸の中に入れてたらどうなるかを考える。

- ・とける
- ・あわを出さないでとける
- ・あわを出してとける

5 ・「とける」だけを答えた児童に、元の金属との違いを考えるように指示する。つなぎ教材【発展型】として塩酸の中で泡を出して溶けている金属の写真を提示する。

◎教卓の前に集めて演示してみせ、元の金属と違っていることを復習する。

【振り返りをみっちり】

授業後のまとめ

1 理科における目指す子ども像

- 考察やまとめに結びつく、めあてを提示することにより、授業が分かりやすい。
- つなぎ教材を活用して、学びのつながりを意識する。
- 予想や考察を自分の言葉でまとめられる。

2 題材名・単元名「水よう液の性質」 11時間 本時9時間目

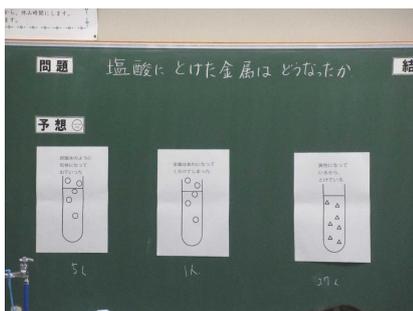
3 つなぎ教材の活用と成果

- ・復習型 単元の最後になるため、子どもから発言が出てこない場面を市理科部会で協議し、5つの場面で復習シートを用意した。
- (1) 鉄だけは磁石がつくこと (3年) 予想
- (2) 金属は電流を流すこと (4年) 予想
- (3) だ液がデンプンを違う物質に変えること (6年) 考察
- (4) 水を蒸発させて溶けている物を取り出したこと (6年) 考察
- (5) 金属は塩酸に泡を出してとけること (6年) ふりかえり

<成果>

子どもの意見が出ない場面で、つなぎ教材であるシートは有効に働いた。
学習した知識をつなぐのに有効に働いた。

4 課題



- ・加熱する場面では立たせて行う方がよい。<研究協議>
- ・ねらいが金属が溶けていたから、別のものに変わったと変化するので、2回のねらいに分けた方がよかった。<研究協議>
- ・予想の場面で○でなく△を描いた子どもの意見を具体的に言わせてから進めると、「別のものに变化した」ととらえやすい。<指導主事講評>
- ・保護眼鏡をしていても固体がはねるので気を付けさせる。<指導主事講評>
- ・実験をさせたら必ず一班ごとに結果を発表させたい。16班が短時間で発表できる工夫をする。<文科省講師講評>
- ・本時の授業を2回に分けて、前半を前時にしておけば、塩化アルミを十分取り出せ、発表時間を確保し、ねらいが2つにならなくてすんだし、実験時間を確保できた。<反省>

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・「水溶液」と「土地のつくりと変化」の単元で二人一実験の体制ができたので、他の単元でも工夫していきたい。



数 学 科 学 習 指 導 案 (略案)

平成30年9月19日 3校時 第1学年

1年3組 指導者 石田卓哉

1 単元名

方程式 1次方程式の利用 比例式の利用

2 本時のねらい

小学校時の比の計算を振り返り、比例式の性質を理解することで、計算の工夫を含んだ比例式を解くことができる。

3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてをつかむ ○小学校の時の教科書の画像を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でやったことがあるな。 ○本時は比例式を解くことを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校とどう違うのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇A 概念導入型 <ul style="list-style-type: none"> 小学校の教科書の画像を見せることで比の計算について思い出させる。 ○小学校の時に計算していた式が比例式であることを伝える。
	めあて 比例式を中学校の考え方で解こう	
課題をじっくり	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題1 【$x:120=2:3$】 ○小学校の知識を用いて立式し、比例式を解く。 ○数が複雑になった場合は小学校の計算方法では手間がかかることに気が付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・計算に時間がかかるなあ。 ○比例式の性質を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・内側と外側同士かけ算するのか。 ○練習問題で比例式の性質に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の知識を思い出させたり、教科書の画像を見せながら比例式を計算させる。 ○左辺の比を単純な倍数で計算できない数に変えて課題を提示する。 ○計算はできるが分数の計算など手間がかかることに気が付かせる。 ○方程式の計算を利用することで比例式が簡単に計算できることに気が付かせる。 ○簡単な数で比例式の性質、計算に慣れさせる。
まとめをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○比例式とその性質についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・比例式の性質を使えば今までの問題も簡単に解けるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇B 復習型 <ul style="list-style-type: none"> 小学校の教科書の画像を見せることで中学校の知識に段階が上がったことに気付かせる。また、様々な計算にも対応できることに気付かせる。
振り返りをみっちり	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題2 【$8:6=(x-6):18$】 ○本時で知った知識で比例式を解く。 ◎課題3 (応用)【文章題】 ○課題2が終わった生徒は文章題に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の時にやった問題だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇B 復習型 <ul style="list-style-type: none"> 小学校の教科書を段階的に見せて考え方に気が付かせるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 子どもの姿 ○本時で学習した知識を用いて、小学校の問題を簡単に解くことができる。問題が解ける喜びを感じている。 </div>

一人1研究授業まとめ

1年数学 石田 卓哉

1 数学科における目指す子ども像

- 数量や図形などについて基礎的な概念・原理を理解し、事象を数学的に表現・処理できる生徒。
- 数学を活用し事象を論理的に考察できる生徒。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを感じ、数学を生活や学習に生かそうとする生徒。

2 題材名・単元名「方程式 1次方程式の利用 比例式の利用」 本時1時間目

本時は、小学校時の比の計算を振り返り、比例式の性質を理解することで、計算の工夫を含んだ比例式を解くことができることをねらいとして設定した。

3 つなぎ教材の活用と成果

(1) A 概念導入型 めあてをはっきり

小学校6年生の教科書を大画面で映し出し、学習した経験や比の計算についての知識を思い出させ、本時で学習する比例式との関連に気が付かせる。

<成果>

教科書の画像を映し出すというシンプルな手立てだったが、生徒達にとっても受け入れやすく、概念導入型としては分かりやすかった。また、生徒の実態として基礎コースの生徒は数学に苦手意識があるが、小学校の内容との関連に気が付くことで安心して授業に向き合うことができた。

(2) B 復習型 振り返りをみっちり 課題2と3

小学校6年生の教科書から本時の内容に関連する問題について取り上げて画面に映し出し、応用問題も一人ひとりが考え、比例式の性質から答えを導き出せるようにする。

<成果>

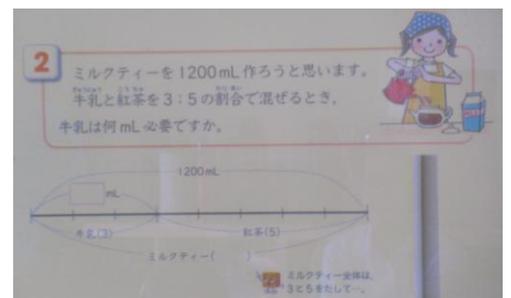
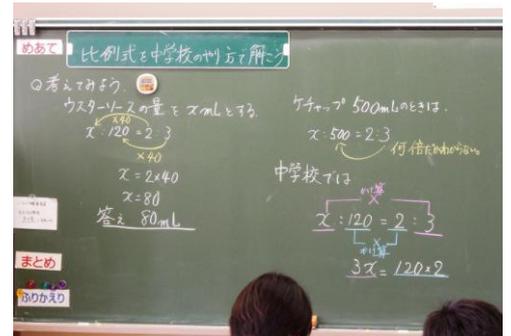
小学校でやった問題と同じ問題であることに気が付かせることは生徒達の学習に対して挑戦する気持ちを引き出させることには有効であった。段階的にヒントを出したことで、問題にチャレンジし答えを出すことができるというやりがいや喜びを感じる生徒が増えた。

4 課題

大画面に教科書を映すことはできていたが生徒達の席によっては教科書のシルエットしか見え、内容などが見えないため、比の計算の内容や同じ問題であることに気が付かない生徒もいた。提示方法を工夫して更に拡大する必要がある。

段階的にヒントを出す工夫をしていたが、指示がばらつき、生徒が考えている時間を止めてしまったり邪魔してしまったりしていた。

つなぎ教材がシンプルだからこそ、課題にして考えさせる時間があるとよかった。



授業改善に向けて、私はこうします！

- ◎ つなぎ教材はシンプルに。提示の仕方と課題との関連をこだわって考える。
- ◎ 授業全体として、生徒への指示の仕方を改善する。はっきりと端的な指示になるように工夫する必要がある。端に呼び出してミニ授業をするなど。
- ◎ 1時間に1度は生徒たち同士で考え、前に出て発表したり活躍できる時間を設定する。生徒が考え活躍することで知識の定着と学習意欲の向上に努めていきたい。

美術科学習指導案(略案)

平成30年9月7日 2校時 第1学年
1年1組(美術室) 中村 順子

1 題材名

世界に一つだけの花

紙でオリジナル花をつくる題材
試行活動で手を動かしながら発想構想を深めることがポイント



2 本時のねらい

試行活動を通して、紙の特性を生かした自分だけの花の形を見付けていく

3 展開

	生徒	教師
めあてをほしめよう	<p>○本時のめあてをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙で談夢祭のステージを飾る <p>「世界に一つだけの花」をつくることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の談夢祭の写真を見せ、ゴールを示し意欲を高める。 題名にあるようにオリジナリティを追求することが課題であることを伝える。
課題をこころ	<p>【試行活動Ⅰ】</p> <p>○紙に様々な方法で働きかけを行い、できるだけ多くの形を見付ける</p> <p>材料：紙 方法：切る 折る 曲げる 道具：はさみ、カッター、ホチキス 手</p>	<p>◇B復習型 これまでの経験から、紙にどのように働きかけたら形を変えることができるか思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小グループで協力し たくさんの方法を試して、たくさんの形を見付ける 机間巡視 <p>おもしろい形を全体に紹介、多様性に気付かせる。</p>
	<p>子どもの姿 (発想・構想)</p> <p>○手を動かしながら、紙の形を変えることを楽しんでいる。色々な方法に挑戦して、新しい形を見付けようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙を切ったり、折ったり、丸めたりして形を変える カッターで切り込みを入れ、折り込んで形を変えるなど 	
	<p>【試行活動Ⅱ】</p> <p>○理科で学習した花のつくりから花のしくみを思い出す。</p> <p>○花のしくみと紙の特性を生かしながら、自分だけの花の形を探る</p>	<p>◇B復習型 小5・中1理科の教科書と花の写真を提示</p> <p>どの花にも花びらおしべ、めしべ、がくがあり、中心があること、たくさんの花が集まる形もあることに気付かせる。</p> <p>○花のしくみと紙の特性を利用していけば、オリジナルの形を見付けることができることに気付かせる。</p>
まとめ	<p>子どもの姿 (発想・構想)</p> <p>○自分だけの花の形になるよに、紙でつくれる形と花のつくりかたとを組み合わせている</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな形をどのようにしたら花にできるか考えている・複数つくってまとめている 花びらとして見立てた形の中心におしべやめしべを付け加えている <p>☆形の規則性や全体のバランスにも意識が向いている</p>	
	<p>○友達を試作品を見て、ヒントを得る。</p>	<p>・相互に作品を見させて、そのよさを感じ取り、自分の作品を更によくするヒントを得られるようにする。</p>
振り返り	<p>○今日の授業で新しく気付いたこと学んだことをワークシートに記入する</p> <p>○道具等の後片付けを行う。</p>	<p>○次時の予告 花の色とマチュールを追求</p>

一人1研究授業のまとめ

1年美術 中村 順子

1 美術科における目指す子ども像

- 既習経験を元に、試行活動で手を動かし、つくりつくりかえながら発想構想を深める姿
- 友だちのよさを参考にしたり、自問自答したりしながら自分の表現を追究する姿
- 制作の過程において学び合い、相互のよさを理解し合い、自己存在感を味わう姿

2 題材名「世界に一つだけの花」～紙でオリジナル花をつくり、談夢祭のステージを飾る～

本時1時間目 既習体験や理科「花のしくみ」を元に自分だけの花を発想する

3 つなぎ教材の活用と成果

(1) B復習型 課題をじっくり 試行活動Ⅰ

これまでの経験から、紙を切る、折る、曲げると形を変えることや使った道具を思い出す。

〈成果〉

始めはおそろおそろ紙を扱っていた生徒も手を動かしながら見付けていく指示と友だちの様子を見ることで、徐々に手を動かしながら、紙の形を変えることを楽しむ姿や色々な方法に挑戦して、新しい形を見付けようとする姿が見られた。



(2) B復習型 課題をじっくり 試行活動Ⅱ

小5・中1理科の教科書と花の写真を提示
どの花にも花びらおしべ、めしべ、がくがあり、中心があること、たくさんの花が集まる花もあることを思い出す。

〈成果〉

花のつくりを想起したことで、自分のつくった形をどのように利用しようか考えることができていた。お気に入りの形を複数作ってまとめたり、花びらとして見立てた形の中心におしべやめしべを付け加えてたり、がくを意識したりして花の形になるように形を追究する姿が見られた。

4 課題

相互の作品を見合って工夫のヒントを得ていたが、その工夫の意図や思いを語り合い共有できる場面があるとさらにイメージが広がり、より一層主体的に取り組める。

授業改善に向けて、私はこうします！

より主体的な取組となるように、制作の意図を言葉でも表現する場を意図的に取り入れていく。机間指導の際に、意図を聞く。ワークシートの振り返りにどのように考え取り組んだのかを書かせる。相互鑑賞や全体交流の場に置いて、どのように考えてつくったのか発言させる。

一人1研究授業まとめ

1年社会 塚本 威足

1 社会科における目指す子ども像

- 社会的事象を大観し、資料や主題図などで検証してノートにまとめる活動を通して、地理的な特色をとらえる力が高めていくことができる生徒の育成。
- 社会的事象を多面的・多角的にとらえることのできる生徒の育成。
- 興味・関心を持って、授業に取り組むことのできる生徒の育成。

2 題材名「アフリカ大陸とはどのようなところかを知ろう」

- 本時1時間目 主題図やグラフ、地図などからアフリカの特色を大きくとらえる。

3 つなぎ教材の活用と成果



- アフリカ大陸については小学校の時にしっかりと学習していないので、他の国との共通点を見いだせるように発問をした。
- 道徳の授業から、アフリカでの飢餓などについて触れることができた。
- 雨温図の読み取りは既習事項を生かして、比較的スムーズに行うことができた。

4 課題

- グラフの見方、主題図の見方など、繰り返し指導していく必要がある。
- 自分の言葉でどのようにまとめるか、繰り返し指導していく必要がある。

授業改善に向けて、私はこうします！

単元によって、考える活動・話し合い活動など、バランスよく取り入れていきたい。

保健体育科学習指導案(略案)

平成30年11月2日 4校時 第2学年
2年1・2組(多目的室) 田代 和也

1 題材名

応急手当の方法と意義

小学校で学んだ、自分自身の傷害に対しての応急手当の知識をもとに、他人に対しての応急手当の基礎知識と方法を知り、場面に合わせて対応できるようにする。

2 本時のねらい

傷害の発生に対する応急手当の方法を知るとともに、応急手当の意義を理解する

3 展開

	生徒	教師
めあてをほしめ	<p>○本時のめあてをつかむ</p> <p>めあて 身近な場面で傷害が起こったとき、自分は何ができるだろう</p> <p>○小学校で学んだことや現在ある知識をもとに、実際の傷害の場面(熱中症、出血)に直面したことを想定して学習ノートの問題を考える。</p> <p>○全体交流で傷害の処置の仕方を知る。</p> <p>○意識が無い場合に自分にできることを考える。</p>	<p>・次週に救命救急の講習がある事を伝え、意識して取り組めるよう声掛けをする。</p> <p>・10班に分けておく(マットの授業班)</p> <p>・学習ノートの問題で場面に合った応急手当の方法が考えられるようにする。</p> <p>◇B復習型 小学校の保健で学んだ「自分でできる簡単な手当」をプロジェクターに提示する。</p> <p>・実際の傷害の場面において行う処置それぞれの意義を考えさせるような声掛けをする。</p> <p>・意識が無い場合は周囲の大人に助けを求めることを伝え、その内容(実際に大人はどのような処置をするのだろうか)から、課題へとつなげる。</p>
課題をこころ	<p>○数値資料を見て、救急処置をした時としない時の生存率の資料であることに気づく。</p> <p>【発問】心肺蘇生はなぜ生存率を高めるのだろうか。</p> <p>(キーワード) 胸骨圧迫→人工的な血液循環 人工呼吸→肺に酸素を送り込む AED→正常な心拍を再開させる</p> <p>【結論】酸素を全身や脳に運ぶことができるから</p> <p>○全体交流を通して、心肺蘇生法とAEDの必要性を考えるとともに、知識が身近な命を救うことを理解し、次週の講習に意義を感じる。</p>	<p>T2: キーワードとともに様々な処置の写真を掲示する。</p> <p>◇C発展型 次週にある救命救急の講習に向けてAEDの必要性について資料をもとに考える。</p> <p>・心肺蘇生法とAEDについての数値資料(救急処置の有無による生存率の差異)から、救急処置の有無が生存率に大きく影響することに気づかせる。</p> <p>・胸骨圧迫→心臓→血液循環→酸素を送る、という思考になるように声掛けをする。</p> <p>・実際の行動が人の命を救うことを理解させ、次週の講習に興味を沸かせ、意義を感じさせる。</p>
まとめ	<p>まとめ 傷害が発生したとき、自分にできる手当は行い、必ず近くの大人に助けを求める。心肺停止の手当としては、心肺蘇生法とAEDの使用があり、大幅に生存率を高める。</p> <p>○傷害の場面で自分には何ができかをまとめる。</p>	<p>・キーワードをもとにまとめられるようにする。</p>
振り返	<p>○本時の学習を振り返りながら、学習ノートで語句の穴埋め問題をやる。</p>	<p>・次週の講習で実践的な詳しい方法を学ぶことを伝える。</p>

準備 ホワイトボード、マーカー、語句カード、場面カード、プロジェクター、PC、スクリーン

一人1研究授業まとめ

保健体育(保健) 田代 和也

1 保健体育科における目指す子ども像

- 傷害が起こる原因をこれまでに学んだ人的要因、環境要因の視点で考えている。
- 身近な傷害の事実から危機管理の重要性を感じている
- 心肺蘇生法と AED の必要性を理解し、救命救急の講習に意欲を抱いている。

2 題材名・単元名「応急手当の方法と意義」

本時1時間目

小学校で学んだ、自分自身の傷害に対しての応急手当の知識をもとに、他人に対しての応急手当の基礎知識と方法を知り、場面に合わせて対応できるようにする。

3 つなぎ教材の活用と成果

(1)復習型

小学校の保健で学んだ「自分でできる簡単な手当」をプロジェクターに提示する。それをもとに、学習ノートの問題を考える。

<成果>

実際に小学校の教科書を見せることで、自分に傷害が起こったときの処置の仕方を思い出すなど、イメージすることができていた。学習ノートの問題も意欲的にキーワードを抑えて考えることができていた。



(2)発展型

次週にある救命救急の講習に向けて AED の必要性について資料をもとに考える。

【発問】心肺蘇生はなぜ生存率を高めるのだろうか。

〈キーワード〉

胸骨圧迫→人工的な血液循環

人工呼吸→肺に酸素を送り込む

AED→正常な心拍を再開させる

【結論】酸素を全身や脳に運ぶことができるから

<成果>

心肺停止時に心肺蘇生を行うかどうかで生存率に影響することを表したグラフをもとに、多くの考え方や意見が得られた。想像する場面では広げられる発想が多数出ることがわかった。



4 課題

①小学校の学びを詳しく。生徒に聞いてから提示②遅れを取る子、特支の子への声掛けや配慮③メモを取る時間の想定、メモすべき場所の指示④グラフの数値を使う場面、生徒からいい意見が出ていた。もっと深められる。⑤教えることと考えさせることのメリハリ

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・最も考えさせたいことを明確にし、キーワードとなる知識(教えること)をもとに生徒が思考を深められるようにする。
- ・授業中に子どもの様子が見えているかどうか重要になるため、細かい気配りや声掛けを意識する。

音楽科学習指導案(略案)

平成30年11月16日 5校時
2年2組(音楽室) 田嶋 弘典

1 題材名

曲のしくみを感じ取って鑑賞しよう

2 本時のねらい

曲のしくみを音楽の要素から感じ取って鑑賞し、ソナタ形式の特徴を知ることができる。

3 展開

	生徒	教師
めあてをほしめ	○本時のめあてをつかむ	B復習型 1学期に鑑賞した「フーガト短調」のフーガの仕組みを想起させ、曲のしくみを感じ取る授業であることを知らせる。 めあて 「曲の仕組みを音楽の要素から感じ取って鑑賞する」ことを板書する。
	【試行活動Ⅰ】 ○ 提示部まで聴く。 ○ 提示部の特徴について考える。	◇ 第一主題・第二主題の対照性に気づけるようにする。 (調・音高・リズム・強弱・楽器) 第一主題 (短調・フォルテ・激しいリズム) 第二主題 (長調・ピアノ・なめらかなリズム) 主題の反復
課題をこころ	子どもの言葉で考え、発表している (鑑賞の能力) ○ 長調 (明るい) 短調 (暗い) ○ 反復 (暗い・明るい・暗い・明るいの繰り返し) ○ スラー (なめらか)	◇ 第一主題の変化に目を向けられるようにする。 ○ 展開部 (第一主題の変化形・リズム 音の高さ) ○ 再現部 (第一主題にオーボエのソロ・第二主題)
	【試行活動Ⅱ】 ○ 展開部・再現部を聴く ○ 展開部・再現部の特徴について考える	子どもの言葉で考え、発表している (鑑賞の能力) ○ 展開部 (暗い部分、しかし音の高さ・リズムが今までと違う) ○ 再現部 (暗い部分・しかしソロの楽器のメロディーが入る) (明るい部分については同じ)
まとめ	○ ソナタ形式について理解する。 (教科書でも確認する) ○ 提示・展開・再現の第一主題の特徴を確認する。	○ 暗い→第一主題 明るい→第二主題 「暗い 明るい 暗い 明るい」「暗い」「暗い 明るい」 を3つの部分に分け提示部・展開部・再現部をからなる音楽の仕組みをソナタ形式であることを確認する。 ○ 提示・展開・再現の第一主題の特徴をクイズ形式で確認する。
	子どもの言葉で考え、発表している (鑑賞の能力) ○ 提示部の第一主題 シンプル 弦楽器の音 音の重なりが少ない ○ 展開部の第一主題 音が高い リズムが細かくきれめがない ○ 再現部の第一主題 音の重なりが多い 管楽器の音 (トランペットの音) 迫力がある	
振り返り	子どもの言葉 ○ ソナタ形式の特徴が分かった。 ○ フーガより主題が増えたり、まとまりがはっきりしたりして、音楽が進化していると思った。	

一人1研究授業のまとめ

2年音楽 田嶋 弘典

1 音楽科における目指す子ども像

- 記号・楽語・歌詞など表現・構成要素を生かして表現・鑑賞する生徒
- 生徒の考えをつなげて、表現を工夫したり鑑賞に親しむ生徒

2 単元名「曲のしくみを感じ取って鑑賞しよう」（ベートーヴェン交響曲第5番）

ねらい「曲のしくみを音楽の要素から感じ取って、ソナタ形式の特徴を知ることができる。」

3 つなぎ教材の活用と成果

B復習型

「フーガト短調で学習した「テーマ（主題）」を生かす」

- テーマとは、繰り返して奏されるメロディー
- テーマとは、変化して奏されることがある（フーガト短調では音程の変化が見られた）

〈成果〉

- 繰り返されるメロディーを「テーマ」として捉えられた。
- テーマが変化した部分（展開部）をテーマとして捉えられた。

4 課題

- フーガト短調は、テーマが1種類だけだったが、交響曲第5番では、性格の違うテーマが2種類出てくる。「なぜ、性格が違うのか」もっと時間をかけて考えさせるべきだった。
- ソナタ形式の理解に関して、提示→展開→再現を考える時に、指示を明確に出すべきだった。

授業改善に向けて、私はこうします！

指示を明確にして、生徒がじっくり考えやすいようにしたい。

数 学 科 学 習 指 導 案 (略案)

平成30年12月11日 1校時 第3学年
3年3組(3-3教室) 布施 昭人

1 題材名

円周上にある点を結んでできる多角形の内角の和

2 本時のねらい

二年次に出てきた星形七角形の内角の和を求める

3 展開

	生 徒	教 師
めあてをほしめよう	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてをつかむ ・2年次に出てきた多角形の内角の和を復習し、星形の形の内角の和の求められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・n角形の内角の和の公式の確認。 2年次にできなかったと思われる問題の再提示 ・五角形からスタートする。
課題をこころえよう	<p>【思考活動Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プリントで星形五角形の場合を考えてみる。 <p>解法① 2年次の方法 解法② 円周角の定理を使用して考える。</p>	<p>◇B復習型 2年次に解いた方法で解説する。</p> <p>さらに円周上にある五点を使い、円周角の定理を確認しながら、容易に解ける方法を探させる。</p> <p>六角形の場合にも拡張させる。 解答の確認。 ・机間指導</p>
	<p>子どもの姿 (発想・構想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年次の内容を思い出し、外角の性質などを使用して内角の和を求める。 さらに3年次で今回学習した円周角と弧の定理を使用して考える。 	
	<p>【思考活動Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○七角形の場合の①となりを結ぶ ②二つ飛ばしを結ぶ形について計算し、難問である一つ飛ばしを計算してみる。 	<p>◇C発展型 前回等の応用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●円周角の定理を前面に押し出して考えさせる。 ・2年生で出てきた問題の提示をする。 ○考える時間を確保し、周辺と話しながら結論を導かせる。できた生徒には説明してもらう。
	<p>子どもの姿 (発想・構想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な解法を知る。 自分にとってわかりやすいものを採用し、九角形などにも挑戦させる。 <p>○終わった生徒は積極的にプリントの裏側に取り組み、その規則性を探させる。</p>	<p>○模範解答を示す。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○星形n角形の内角の和は円周上にある場合は180°を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒な七角形も補助線を2本引き、円周角の定理を使用することで解決することを理解させる。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の授業で計算できたものを裏面のプリントに記入し、次回までの発展学習として課題とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○終わらないと思われるので、次までの課題とする。 ○復習するための小プリントも配布 ○次時の予告 直径の上に立つ円周角

一人1研究授業のまとめ

3年数学 布施 昭人

1 数学科における目指す子ども像

- 数量や図形などについて基礎的な概念・原理を理解し、事象を数学的に表現・処理できる生徒。
- 数学を活用し事象を論理的に考察できる生徒。
- 数学的活動の楽しさや数学のよさを感じ、数学を生活や学習に生かそうとする生徒。

2 単元名「円周上にある点を結んでできる多角形の内角の和」

ねらい「2年次に登場した星形7角形の内角の和を求める。」を達成するために以下のような方策を行った。

- ・授業の導入では、星形5角形の内角の和をまず考えさせた。2年次での解法を思い出させた。円周上の5つの点という制限を加え新たな問題とした。
- ・生徒同士で説明し合う場面ではまず自分の考えを持たせた。その後、黒板で考え方を説明させた。
- ・ねらいである7角形の場合はどう考えればよいか十分時間を与え、解法を気づかせた。

3 つなぎ教材の活用と成果

(1) B復習型

2年次の多角形の内角・外角の和の求め方の確認。

<成果>

- ・ $180^\circ \times (n - 2)$ の確認ができた。
- ・円周角の定理を利用した解法を思い出す生徒が多くいた。

(2) C発展型

3年次の円周上の7個の点を一つ飛ばしで作られる7角形の内角の和を求める。

<成果>

- ・2年次では難問だった問題が思ったより簡単に解けることを発見できた。
- 9角形などにも挑戦させてその角度がどう変わるかもまとめさせた。



4 課題

- 下位群の生徒に対して理解できた生徒が積極的に関わり教えていたが、その説明も難しく感じたようで諦めてしまう瀬戸も数名いた。全員が理解することはなかなか難しいと感じた。単発の課題だったので、その後に影響するような内容でなかったことが救いだった。

授業改善に向けて、私はこうします！

難しいと思われる式や証明など、省略せずにひとつずつ丁寧に解説し、生徒が考える時間を多くとり、また毎回小さな課題プリントを配布して知識の定着をはかります。

教科指導上の自己研鑽課題

既習事項を活用しながら、根拠を明確にして自分の考えを表すことができる生徒の育成

国語科 学習指導案(3年1組)

平成30年11月26日(月) 13:40~14:30(場所) 3年1組教室 指導者 和田佑果

〈授業改善の視点〉

前時までにまとめた「初恋」の構成や展開、語句や表現をクラゲチャートにまとめて考える活動を取り入れれば、生徒は明確な根拠をもとに作品の主題にせまることができるであろう。

1 単元(題材)名

語りと向き合う

教材名 『初恋』 島崎藤村(教育出版3年)

2 考察

(1) 学びのつながり

【学習指導要領における位置】

[第3学年] C読むこと

(1) 目標 (3) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに表現したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(2) 内容 (1)

ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。

イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

【これまでの学び】

生徒はこれまでに、第2学年の「レモン哀歌」、第3学年の「春に」「乾かめ絵具」によって、詩において比喩表現や反復表現が用いられている箇所に着目したり、時代背景や語り手の境遇に注意したりしながら状況や心情を捉える学習を行ってきた。

また、第3学年の「和歌の鑑賞文を書く」学習により、和歌から受ける印象や考えたことを書き表す経験をしてきた。その際、歌中の具体的な表現に言及することで根拠が明確になり、より客観的な書き表し方ができることを学んでいる。

【ここでの学び】

「初恋」によって、生徒は初めて文語定型詩の形式を学習する。快い七五調の韻律や古語の美しい響きを音読によって味わい、初恋の初々しい詩情にふれていくことになる。連が進むにつれ、少年の恋も進んでゆく。まず、詩の中の情景と情景に込められた心情を表現に即して丁寧に読み取る。次に、クラゲチャートを用いて主題を明らかにする活動によって、「初恋」が私たちに何を伝えてくるのかについて、友達と交流しながら自分の意見を表す。

本時では、「初恋」の表現方法や内容、当時の時代背景を踏まえながら主題を捉え、クラゲチャートの形式で書き表し伝え合うことでねらいを達成していく。

【これからの学び】

様々な表現や時代背景を踏まえながら作者の考えを読み取り、考えを深める本単元の学習経験を生かし、中国の文学「故郷(魯迅)」を読み、作者の思いを読み取っていく。ここでの読み取りにおいても、時代背景や作者の境遇をおさえながら読むことで根拠のある正確な読みになってくる。また、正確な読みで本の世界を楽しむという経験は、読書を一生継続しようとする意欲の動機になり得るであろう。

(2) 教材観

島崎藤村の「初恋」は、初めて知った恋の喜びを大胆に、素直にうたいあげた詩である。明治の封建的な時代において、恋愛は道徳的に非難されることもあったが、その一方でおおらかに恋愛の詩をうたいあげたことは革命的なことであった。初恋という誰しも経験する感情を、七五調の美しいリズムでうたったこの詩は、戦前、戦後を通じて若い読者に圧倒的に支持されてきた。文語表現の美しいリズム感と、純真な初恋の思いを味わうことができる。以上のような特徴があるこの詩は、リズムを味わいながら表現をもとに内容を理解し、表現や時代背景を根拠に主題についての自分の考えをもつ活動に適した教材である。

(3) 生徒の実態 (男子17名、女子17名、計34名)

【国語への関心・意欲・態度】

本学級の生徒は、詩の鑑賞を好まない傾向がある。「詩の内容を読むことは好きか嫌いか」という質問に対して、11名：3分の1程度の生徒が「好き」、21名が「好きではない」、2名が「とても嫌い」を選択した。好きではない理由としては、「表現技法が多く煩雑だから」「比喩が多く具体的な表現でないため、内容を理解することが難しいから」等、表現の工夫から内容を読み取ることへの苦手意識が多く挙げられた。一方、詩を好む生徒は「作者の考えや思いがわかるのがおもしろいから」「短い中に様々な思いがあるから」「込められた意味を読み取るのがおもしろいから」等を理由として挙げ、表現の工夫をもとに短いことばの中に込められた作者の思いを感じ取ることの楽しさや喜びを感じることができている。

【読むこと】

詩の鑑賞に関しては、「虹の足」「レモン哀歌」「春に」「乾かぬ絵具」等で、表現技法に着目して内容を読み取る学習を経験してきた。特に「虹の足」では直喩法、「レモン哀歌」「春に」では隠喩法、「乾かぬ絵具」では双方の比喩表現をもとに、情景や心情を想像する学習を積み重ねてきている。表現技法が用いられている箇所は読者に印象付けるための工夫がなされた箇所であり、つまりは作者が一番伝えたいこと、強調したいことであるため、鑑賞する上で重要な箇所であるという意識はほとんどの生徒にある。一方で、喩えられている事物と作者が伝えたいこととのつながりを意識しきれていないために、比喩表現が却って思考の妨げになってしまっている生徒も見受けられる。特定の事物に喩えた意図が読み取りの根拠となることを意識させたい。

3 目 標

時代背景や表現上の工夫を根拠としながら読むことで、詩の内容を客観的に読み取り、「初恋」の主題を捉えることができる。

4 評価規準

【関心・意欲・態度】

七五調のリズムに注意して意欲的に音読し、詩の内容を理解しようとしている。

【読むこと】

様々な語句や表現から読み取ったことや当時の時代背景を根拠として詩の内容を読み取り、主題についての自分の考えを持っている。

5 指導方針

(1) 教材について

- ・当時の女性の髪型やその年齢による変化、当時の恋愛など、当時の様子をおさえることで、時代背景を踏まえて本教材に向かえるようにする。
- ・学びの記録が学習の流れとともに簡単に振り返れるよう、なるべくノートのみを活用する。

(2) 読み取りについて

- ・音読する時間をとることで、文を読むことに抵抗がある生徒や黙読だけでは理解が難しい生徒の理解を助ける。
- ◎一つの表に本単元1時間1時間の今までの学びをまとめ、可視化しておくことで、恋の発展や成就など、時系列を意識して考えることができるようにする。
- ◎時代背景をもとにしたり比喩表現に着目したりすることで、想像ではなく、根拠が明確な読み取りになるようにする。

(3) 学びのつながりについて

- ・単元導入時に、今まで授業で扱ってきた恋愛を題材にした文学作品を振り返る。その恋愛の結末はどうなったのか、どのように描かれていたかを確認し、この詩に描かれた恋愛はどういったものか考えるきっかけとする。
- ・資料集の意識的な活用を積み重ねることにより、「つなぎ教材」として活用できるようにする。
- ◎本時では、今までに読み取ってきた詩のキーワードを書きためてきた黑板掲示 (つなぎ教材：B復習型) で確認することで、既習である着目すべき箇所を考える手立てとする。

6 指導・評価計画

○指導・評価計画作成のポイント

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価項目等
<p>【既習事項とのつながり】 ①「レモン哀歌」「春に」で表現技法に着目して詩を読み取った。②「ベンチ」「夢を跳ぶ」「無言館の青春」で時代背景や登場人物の境遇を踏まえて内容をとらえた。③本文の語句や表現の仕方で優れていると思った箇所を根拠に、和歌の鑑賞文を書いた。以上の3点を振り返ることで、語句や表現の仕方に注意して(①)、時代背景や登場人物の境遇をふまえながら(②)、根拠を明確にして(③)「初恋」の主題を考えることを伝える。</p>				
ふ れ る	1	○第一連・第二連 二人の出会いと恋の始まりの様子をとらえる。 ・単元全体の目標を知る。 ・本文を読み、リズムを楽しむ。 ・「君」の前髪、「初める」の意味に着目する。	・音読の時間を十分にとり、「文語定型詩」であることに気づけるようにする。 ・既習の詩や恋愛についての文章を振り返らせ、単元全体の方向性を示す。	【関心・意欲・態度】 ○七五調のリズムを感じながら、心地よく音読している。(発言・ノート) 【読むこと】 ○根拠を明確にし、客観的に心情やキーワードを捉えている。(発言・ノート)
	2	○第三連・第四連 恋の進展、結末をとらえる。 ・ため息が髪にかかるという距離感、自然にできた道がなぜできたか、なぜ細いのかということに着目する。 ・詩全体でどのように恋が描写されているのか概観する。	・語句や表現から直接的に感じられることと、当時の時代背景とを併せて考え、客観的な読み取りにできるようにする。	【読むこと】 ○根拠を明確にし、客観的に心情やキーワードを捉えている。(発言・ノート)
ま と め る	3 ※ 本 時 ※	○主題にせまる。 ・「初恋」の主題をとらえる。	・印象的な語句や表現を挙げ、それを根拠とすることで、論理的・客観的に主題にせまられるようにする。 ・根拠が可視化され明確になるよう、クラゲチャートにメモをとるようにする。	【読むこと】 明確な根拠のもとに「初恋」の主題をとらえ、自分の意見をもつことができている。(ノート、発言)
<p>【次の単元へのつながり】 2学期の最後に中国文学である「故郷(魯迅)」を学習する。本単元において描写や表現、時代背景や対象人物の境遇をもとに主題にせまった学習を生かし、文章中に表れている様々な表現を深く読み解きながら広い視野で内容を捉えていく。</p>				

7 本時の学習

- (1) **ねらい** 詩中の語句や表現、当時の時代背景を踏まえ、根拠を明確にして主題をとらえる。
 (2) 準備 (生徒) 教科書、ノート、資料集 (教師) 左記のもの、黒板掲示
 (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点
1 本時のめあてを知る。	5	◎「学びのつながり」 ◇「つなぎ教材」 ※やる気の生徒指導 ◎前時までに読み取った詩中のキーワードを確認する。 「林檎」「初める」「ため息が髪の毛にかかる」 「恋の盃」「おのずからなる」「細道」「問ふ」
【めあて】「初恋」の主題は何だろう。～クラゲチャートを用いて、根拠を明確にしよう～		
2 めあての解決方法を知る。 ・恋の描写のされ方 ・語句や表現		○ めあて・活動設定の工夫 「初恋」は、初恋の喜びや自由な恋愛への憧れがのびのびと表現されている。クラゲチャートを用いることで根拠を明確化し、より客観的な読み取りが意識されるようにした。 ◎既習の詩の学習において、表現技法に着目して読み取りを行ってきたことを想起させる。また、表現技法の使用には強調し印象付ける目的があることから、筆者が伝えたい箇所であることに気付けるようにする。
3 本時の学習活動をつかむ。 「クラゲチャートを用いて、根拠を明確にして主題を考えよう」		◎和歌の鑑賞文を書いた学習を振り返り、具体的な表現や語句を根拠に印象を記述したことを想起させる。 B復習型 ◇ 今までの学習内容を示す表を見て、根拠となる詩中におけるキーワードを確認できるように指示する。
4 語句や表現、時代背景に着目して詩を読み取り、クラゲチャートにメモをとる。	10	・誰が踏み染めし～こいしけれ→お互いを想いあうことの喜び。 ・おのずからできた細道→二人の意思で恋愛ができる喜び。 ・花ある君→自分がいいと思った人と恋愛をすることへの憧れ。 ※まず個々で考える時間をとることで、自分の意見がもてるようにする(自己決定)。
5 グループで発表し合い、グループの案を出す。	15	※自分の考えをグループで交流することで、全員が学習に主体的に取り組めるようにする(自己存在感)。
6 全体で共有する。	5	※同じ主旨を言い表すのに異なる単語を用いていることに気付かせることで、互いの考えを認め合えるようにする(共感的人間関係)。
7 めあて に対する まとめ を書き、発表する。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 評価項目【読むこと】明確な根拠のもとに詩の主題に関する自分の意見をもつことができている。(鑑賞文、発言) </div> ○友達の見解を聞いて、自分の意見に付け加えたり、自分の意見を変えたりしてもよいことを伝える。
8 本時の学習を振り返る。 ・時代背景を知ることは大切。 ・語句一つの中にも、作者の思いや主題のヒントがある。	5	◎時代背景や、表現技法の用いられている語句が読み取りの根拠となることを確認し、中国文学「故郷(魯迅)」の学習にそれが生きることを示唆し、これからの学習へつなげる。

一人1研究授業まとめ

3年国語 和田 佑果

1 国語科における目指す子ども像

○既習事項を生かして主体的に新たな学びに挑戦する生徒

2 題材名・単元名「語りと向き合う」『初恋（島崎藤村）』 本時3時間目

3 つなぎ教材の活用と成果

B復習型 学習過程：課題をじっくり

◎単元全体の流れを提示（『学習の流れ一覧表』）

「何をポイントに学んでいくのか、どのような力が付けばよいのか」を明確にし、単元全体の学習活動計画を一時間目に提示する。「今日は何を学ぶのか、この学習が単元全体でどう生きるのか、次からの単元にどう生きるのか」というように、俯瞰的に今現在の学びを見取れるようにする。

第四連	第三連	第二連	第一連	描写表現
「誰か」と 問はしもう	おのづからなる 細い	「われ、私、 君、と、私、 酒」	花ある君	あひの初めと 別れをよびます
想いが通じ たさえる	何處も あふまぬ	酔う 君に 「さし て」	「君は美しい 目がある か、あんなに かたくなな 心はないか」	わかること 小見出し
恋の成就	恋が進展 高まり	初恋の はじまり	出会い 意識ははじめる	

初恋
島崎藤村
初恋の1週間
何だろう
構成展開
描写表現
時代背景
①各連の内容
②つなぎ教材
③課題を学ぶ

◎単元全体のめあてを達成するために、既習事項を活用できるような単元構想の工夫

まとめ方の工夫（『今までの学び』一覧表）

「今までの学習で○○ということ、××ということがわかった。ということは、△△ということがいえる」既習事項をヒントとしたり根拠としたりして、単元のまとめが自力解決できる展開にする。

〈成果〉

- 【『今までの学び』一覧表】を【『学習の流れ一覧表』】に合わせた構成にすることで、一時間一時間のゴール及び単元全体のゴールが明確になり、意識しながら指導・学習ができた。
- 今までの学習を踏まえ、それを根拠にししながら自分の考えを記述できた。
- 自力解決の場面では、当初自分の考えがもてなかった生徒が【『これまでの学び』一覧表】のキーワードを参考に、自分なりの考えが記述できた様子が見受けられた。
- 既習事項や時代背景を踏まえてより論理的、客観的に文章の主題を考察させることができた。

4 課題

▲模造紙による黒板掲示のより一層の利便化を図る。

→ I C T機器を活用してP C画面を黒板に投影し、文字をその場で打ち込んでいく方式に切り換えれば、文字の色や大きさ、語の配置が自由に操れるため、柔軟に生徒の意見に対応できると考えられる。また、データとして残すことで次単元の際に導入や復習での活用が容易になる。

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・ **まとめ**の仕方について、1年次から様々な形を提示し、使い分けられるようにする。
- ・ 発問の精選&個への対応。「主題は何だろう」（より多くの意見が得られる・話し合いが盛り上がる/反面、抽象的な質問でわかりづらい）がよいのか、「恋とはどんなものだろう」（より平易で具体的であり、わかりやすい/反面、つまらない、生徒の意見が出づらくなりがち）がよいのか…。全体には前者、苦手な子には後者？
- ・ 振り返りの時間を確保。一つ一つの活動を伸ばさず、時間で切る。

英語科学習指導案（略案）

平成31年2月8日（金） 13:40～14:30（2年2組）

指導者 江口 佳那

ALT Maria Kimura Luisa

1. 題材名

Lesson8 India, My Country (NEW CROWN ENGLISH SERIES 2)

2. 題材の目標

- ・多言語国家の生活、文化について知る。（関心・意欲・態度）
- ・Show&Tellを活用して、自分の好きなものについて紹介することができる。（表現）
- ・日本における人・ことば・社会の結びつきについて考える。（理解）
- ・受動態を理解し、使う。（言語・文化）

3. 題材構想

過程	時間	主な活動	指導上の注意	評価項目等
ふれる	1 本時	○自分の身のまわりで使われているものについて3ヒントクイズをつくる。 ○ALTのShow&Tellのモデル文を聞き、本レッスンのゴールを意識する。	○”～is used”（受動態）の意味に気付かせる。 ○「ものの説明（3ヒントクイズ）の活動を通して受動態への必要感をもたせる。	○身のまわりで使われているものについて相手に意欲的に伝えようとしている。 【関心・意欲・態度】
追究する	2	○Lesson8-1の内容理解の学習を通して受動態（現在形）の用法を理解する。 ○本文を音読する。	○受動態（現在形）の用法を理解させる。 ○音読やQ&A、ペアとのやりとりを通して概要を理解させる。	○Q&Aなどの活動を通して、本文の内容を理解することができる。【理解】
	3	○受動態（過去形）の用法を理解する。 ○不規則変化動詞の過去分詞を学習する。 ○自分の好きなものを紹介する受動態を含む文を3つ書く。	○ALTの話を読み、受動態の（過去形）に気付かせ、用法を理解させる。 ○規則変化と不規則変化について例文を使いながら生徒に気づかせ、主体的に学習するようにする。	○受動態の用法を理解することができる。【理解】
	4	○Lesson8-2の本文を読み取る。 ○本文を音読する。	○音読やQ&A、ペアとのやりとりを通して概要を理解させる。 ○ALTとJTEでデモンストレーションを行い、次にする活動を理解させる。	○Q&Aなどの活動を通して、本文の内容を理解することができる。【理解】
	5	○受動態を含む文を用いて、友だちと会話をする。 ○自分の好きなものを紹介する受動態を含む文を3つ書く。	○受動態を用いて正確に理解させる。 ○自分が書きためた文を友だちに伝え、教え合いの中で理解を深める。	○受動態の用法・意味を正確に理解することができる。【理解】
	6	○ラーズのインドについての話を聞いて、多言語の国や人・ことば・社会の結びつきについて関心を高める。 ○USE-Readの本文の概要を理解する。	○写真などの視覚教材を用いてインドへの関心を高めさせる。 ○ラーズの新聞記事の概要を理解させる。	○インドの文化への関心を高めることができる。 【関心・意欲・態度】
	7	○USE-Readの本文を読み取る。	○Q&A、ペアとのやりとりを通して内容を理解させる。	○ラーズのインドについての話を読み、理解することができる。【理解】
8	○自分の好きなものについて紹介する文を考える。（25語以上、6文以上）	○書きためた文を推敲し、紹介文を完成させる。 ○Show & Tellに必要な絵や写真を用意することで次時への意欲を高める。	○自分の好きなものについて受動態を使って文を作ることができる。【表現】	

	9	○ALT に自分の好きなものについて紹介する。	○自分の好きなものについて紹介させる。 ○ビデオに撮影することでより実践的な活動にする。	○ALT に自分の好きなものについて伝えることができる。【表現】
まとめ	10	○ビデオに撮った自分の Show&Tell を振り返り、友だちと意見を共有する。	○自分の Show&Tell を振り返らせる。 ○完成したものを廊下に掲示し、生徒の自己存在感を高める。	○受動態について理解することができる。【知識・理解】

4. 本時の学習

(1) 本時のねらい

“is used”の表現を聞いたり使ったりしながら、受動態の用法・意味に気付き、身のまわりで使われているものを伝えようとするとともに、単元末に行う Show&Tell への見通しを持たせる。

(2) 展開

◎学びのつながり ※生徒の指導の三機能 ◇つなぎ教材 ☆評価項目(方法)

	学習活動と 予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価	
		JTE	ALT
めあてをはっきり	○JTE と ALT の会話で“is used”を含む文を聞く。 ○会話が示すものがわかたら挙手をして答える。 ○受動態を用いた3ヒントクイズを見ることで、コミュニケーション活動に意欲的になる。 ○“is used”を含む英文を読み、“使われる”という受動態に気付く。	○ 受動態を用いた 3 ヒントクイズをする。(①はさみ、②ラジオ) ○ 難しいものについては“is used”を用いた文を黒板に提示し、答え合わせのあと生徒に復唱させることで生徒が“is used”(受動態)の意味に気付くようにする。 ○ 受動態の文を ALT に続いて練習させる。 ○ 本時のめあてを掲示する。	◇JTE にたずねられたものを“is used”を含む 3 文で説明する。(A 概念導入型) ○クイズを 2 つ行い、難しいものはキーワードを見せながら説明する。 ◎“is used”を含む英文を読み、“使われる”という受動態の意味に気付かせる。
めあて 身のまわりのもので 3 ヒントクイズをつくって楽しもう。			
課題をじっくり	○グループごとに身のまわりで使われているものについて伝える 3 ヒントクイズを作る。 ○全体でグループごとに 1 人 1 文ずつ発表する。 ○聞き手は 3 文すべて聞いてから、何について説明しているのか当てる。	○3,4 人のグループで 1 人 1 文ずつ“is used”を含む文を考えさせる。正確な記述よりもキーワードとなる動詞を書かせる。 ○うまく文が作れない生徒には日本語のヒントを与え、それをもとにグループで英文をつくるように指示をする。 ○発表グループ全員の文を聞いてから挙手をするように説明する。 ○つまづいている生徒を支援する。 ※答えを当てたグループのみではなく、クイズを伝えられたグループをほめることで生徒の自己存在感を高める。	○クイズの答えとなる英単語のカードを 1 枚ずつ配る。 ○早くできたグループには実践練習をさせ、クイズに答えることで「伝えられた」という自信をもたせ、発表につなげる。 ○生徒の発表のよさを褒める。 ○つまづいている生徒を支援する。 ○聞き手から答えが出ないときは発表者に質問をして聞き手にさらにヒントをあたえる。
☆“is used”(受動態)の用法・意味に気付き、それを用いて相手に伝えようとしている。(観察)			
まとめ・振り返り	○ALT の好きなものについての Show&Tell を聞き、単元末に行う活動への見通しをもつ。 ○発表原稿を読み、is used 以外の受動態に気付く。 ○“is used”を含む文を 1 文書く。	○生徒が作った文を取り上げて受動態の意味を確認する。 ○ALT の発表原稿を生徒に配り、受動態の文に気づかせる。 ○本時で使用した“is used”を含む文を 1 文書かせる。 ○単元の計画表を示し、次時までに、自分が紹介したいものを決めてくることと、Show&Tell の準備を始めることを伝え、学習意欲を高める。	○単元末に行う Show&Tell のモデルを示し、生徒にレッスンのゴールを意識させる。

一人1研究授業まとめ

2年英語 江口 佳那

1 英語科における目指す子ども像

- これまでに身に付けた語彙や文を適切に用いて、自分の思いや考えを意欲的に英語で伝えようとする生徒
- 語句や文の意味・用法を言語活動の中で理解し、繰り返し使う中で正しく表現する力を身に付け、4技能をバランス良く高めていける生徒
- 伝えたいことを自分で選び、ペアやグループの活動で互いの良さを共有しながら、英語でコミュニケーションする楽しさを味わう生徒

2 題材名・単元名「Lesson8 India, My Country(三省堂2年)」

本時1時間目

“is used”の表現を聞いたり、使ったりしながら、受動態の用法・意味に気づき、身のまわりで使われているものを伝えようとするとともに、単元末に行う Show&Tell への見通しをもたせる。

3 つなぎ教材の活用と成果

・A概念導入型 学習過程

- ①ALTの3ヒントクイズのモデルを聞くことで is used の意味・用法に気づき、それをを用いてグループごとに3ヒントクイズをつくらせ、発表させる。
- ②ALTの自分のお気に入りのものについての Show&Tell を聞き、8時間目に行う Show&Tell の見通しをもつ。



<成果>

クラス全員が、“is used”を用いた文をつくり、1人1文発表することができた。これは英語が苦手な生徒にとって自分で英文をつくり、相手に伝えることができたことは自信になったと思う。また、2年生は、自分の意見を英語で相手に伝えたいという強い気持ちがある。そのため、今回も積極的に手を挙げ、多くの生徒が発言することができた。生徒は楽しく英語を使って意欲的に3ヒントクイズの活動に取り組むことができた。

4 課題

生徒が “It is used”を用いて文をつくる時にどのようなことを続けたらよいのか、when, in, to, by がどういう時に使われているのか分からないまま文をつくっていた。そのため、ALTの3ヒントクイズのモデルを示す時に It is used in art club.(When), It is used in the kitchen.(Where), It is used to cut paper.(What)のように文の後ろに何について書いてあるのか示すと生徒もどういう時に何を使えばよいのか、何について書けばよいのかが分かり、より文をつくりやすかったのではないかと考える。

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・ 普段の授業の中で、5W1H(Where do you use?, How do you use?, When do you use?など)の質問をして、生徒が文をつくりやすくするための支援をする。
- ・ 振り返りの時間を十分に取り、本時で学んだ活動を自分で振り返らせる。

理 科 学 習 指 導 案 (略案)

平成30年4月24日 第3学年

3年2組 (理科室) 櫻井 大起

1 単元名

運動とエネルギー (3年)

2 本時のねらい

重いものを2人で角度を変えて持つ演示実験をもとに、力の分解について自らの考えを作図や文章で導いたりまとめたりして表現できる。

3 展開

	生徒	教師 ※学びのつながり
めあてをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてをつかむ ○前時の実験を振り返り、本時のめあてをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ※前時の実験を振り返り、課題につなげさせる。 ※力のつり合いの関係を思い出させる。 ※力の合成で平行四辺形を用いて合力を表したことを思い出させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 1つの力を2つに分けた場合、それぞれの力はどのような関係になるのだろうか </div>	
課題をこころ	<ul style="list-style-type: none"> ○理科用語の確認をする。 	用語 ・力の分解・分力
	<ul style="list-style-type: none"> ○重いものを2人で持った場合、持つ角度によって必要な力に変わりがあるのかを考える。 ○予想をする。 <ul style="list-style-type: none"> ①広がったほうが楽 ②近づいたほうが楽 ③どちらも変わらない ○演示実験を見て、結果を確認する。 ○考察をする。(個人) ○班で考察をまとめる(班) 班の意見をホワイトボードにまとめる。 ○考察を発表する。 	 <ul style="list-style-type: none"> ◇ B 復習型 実験では自分の感覚ではなく、計測できる機器を用い数値で複数回記録することを押さえる。 ○角度が狭い場合と、角度が広い場合の2通りの作図から考えさせる。 ◇ B 復習型 既習事項の「力のつり合い」、「力の合成」のまとめを提示し、合成の逆の考えを使えばよいことに気づかせる。 ○机間巡視をし、考え方の視点を助言する。 ※物体には重力がかかっていること ※力は矢印の向きと長さで表すことができること ※静止している状態はつり合った状態であること ※力の合成の場合と同じように、平行四辺形を考えるようすにすること
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言葉でまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてに対するまとめをさせる。 ・指名し、黒板に書かせる。
振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 子どもの姿 ○力の分解について、既習事項(力の合成)を活用して作図をし、問題解決に取り組んでいる。班での学び合いにより、力の分解について学ぶ意欲を高めている。 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○斜面上の物体にはたらく重力の分力を考える。 ・水平面(角度0°) ・斜面の角度が小さいとき ・斜面の角度が大きいとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで学習を元に、斜面上の物体にはたらく重力の分力を考えさせる。 ○必要に応じ、プロジェクターで生徒の解答を投影する。

一人1研究授業まとめ

3年理科 櫻井 大起

1 理科における目指す子ども像

- 課題解決の場面で既習事項を活用して、問題解決に取り組んでいる生徒
- 課題解決に向けて考えを練り上げていく学習活動の過程で、思考力・判断力・表現力を高めている生徒
- 毎日の授業の中で自己決定を繰り返し、共感的人間関係を醸成し、自己存在感を味わう学び合いを行うことにより、学ぶ意欲を高めている生徒

2 題材名・単元名「運動とエネルギー」本時4時間目

力のつり合い、力の合成の既習事項を基に力の分解がどのように表すことができるかを考え表現する。



3 つなぎ教材の活用と成果

(1)B復習型 課題をじっくり 演示実験

予想をさせてから実験をやることの重要性、実験データは複数回計測することを確認する。

<成果>

ものを二人で運ぶという身近で予想のしやすい問題を扱ったことで、生徒の興味・関心を高め、その後の活動に移ることができた。

(2)B復習型 課題をじっくり 作図

力の分解が「力のつり合い」「力の合成」の考え方を基に表すことができる(逆の考え方)ことを理解し、作図する。その際に小学校でやった平行四辺形のかき方を思い出す。

<成果>

既習事項の平行四辺形の作図方法を確認したことで、平行線の対角線から2つの分力作図することができた。班での教え合いにより、作図が苦手な生徒もできるようになった。



4 課題

- ・めあてや課題解決の場面で、既習事項を使って問題を解決していくという意識を生徒が常に持つこと。
- ・自分の考えを文章や図で表現し、他の人にわかりやすく説明できること。

授業改善に向けて、私はこうします！

- ・生徒が疑問を持ち、その仕組みを知りたい・わかりたいという知的欲求を高める課題を設定する。
- ・既習事項や生活経験を基に予想したり、考察したりしたことを文章にまとめ、班や全体で発表する場面を増やす。

1 単元名 柔道

2 本時のねらい

相手に逃げられないよう抑えるには、どのように体を使えばよいか考えながら横四方固をかけることができる。



3 展開（本時4／8）

	生徒	教師
めあてをはつきり	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 横四方固で15秒間抑え切るには、どのように体を使えばよいだろうか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○準備運動 体操、柔軟、ブリッジ、後ろ受け身回転運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・正座の姿勢や、座礼の仕方がきちんとできているか確認する。 ・壁の掲示資料で横四方固について確認し、本時はその発展的な活動になることを知らせる。 ・後ろ受け身の時に、後頭部が畳につかないよう、声をかけながら巡回する。
課題をじっくり	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に学習した横四方固を確認する。 ○横四方固の「応じ方（逃げ方）」を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・受けが、取りの足を絡む。 ・受けが、うつ伏せに戻る。 （取りは技を施す側、受けは技をかけられる側のことをいう。） ○三人グループをつくり、応じ方の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・取り、受け、アドバイザーの役割を決める。 ・アドバイザーは、助言したり、動作の補助をしたりする。 ・2分を目安に役割を変える。 ○グループの中で横四方固を使った約束練習（約束事のある練習）を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・取りは横四方固でしっかり抑える。 ・合図とともに、受けは、応じ方を使い逃げようとし、取りは逃げられないように抑え続ける。（15秒間） ・お互いに受けと取りを行ったら相手を変え、同様にして約束練習を繰り返す。 ○相手に逃げられないようにするためには、どんなことを意識するとよいかグループの中で話し合う。 ○他のグループの生徒と約束練習を行う。 	<p>【B 復習型】二人の生徒に取りと受けをしてもらい、「首、脚を抱える」「自分の胸を相手の胸に合る」のポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が受けをし、師範を示しながら動きの説明をする。 ・取りや受けが技をかけやすいように、体格が同じくらいの生徒どうしでグループをつくる。 ・「受けが取りの足をなかなか絡めない」「うつ伏せに戻ることができないとき」といったつまづきが予想されるので、その時にアドバイザーが行う補助の仕方を説明する。 ・相手に逃げられないようにするためには、どんなことを意識すればよいか考えながら活動させる。（「足を絡まれないようにするにはどうする？」「うつ伏せに戻れないようにするにはどうする？」） ・すぐに逃げられてしまう生徒については、スタート前に横四方固の形をしっかりと作ってやる。 ・「力を入れる」「柔道着を強く握る」「首、足をしっかり抱える」「相手に密着する」などの意見が予想される。 ・グループで話し合ったことを意識しながら横四方固で抑えるよう声をかける。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に逃げられないよう横四方固で抑えるには、「しっかりと胸を合わせて相手を引きつける」「膝を相手の腰にしっかりと付ける」とよいことが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えたことや気付いたことを発表させながら、本時の活動をまとめる。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習で気付いたことをカードに書く。 ○挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、抑え技の「袈裟固」を学習することを告げる。

一人1研究授業のまとめ

1年保健体育 齋藤 秀次

1 保健体育科における目指す子ども像

- 大きな号令をかけながら、体操・補強運動などを行い心づくり体づくりを行う。
- 個や集団の課題を考え、それを解決するためのメニューを考えたり、場を考えたり、用具を活用したりする学習活動を設定する。

2 題材名「柔道」 本時4時間目

相手に逃げられないよう抑えるには、どのように体を使えばよいか考えながら横四方固をかけることができることをねらいとした。

3 つなぎ教材の活用と成果

○B復習型

前時に学習した横四方固を、二人の生徒に代表で「取り」と「受け」をしてもらい、「首、脚を抱える」「自分の胸を相手の胸に合る」「膝を相手の腰にしっかりあてる」などのポイントを確認する。

〈成果〉

- ・横四方固のポイントを再確認でき、改めてイメージをつかむことにつながった。
- ・横四方固で抑える活動になったときに、スムーズに横四方固の姿勢をとれる生徒が多く見られた。
- ・アドバイザー役の生徒が、アドバイスや補助するポイントがつかめた。



4 課題

- グループでの話し合い活動の時に、良い意見交換ができていたグループもあったので、それらの意見に教師が気づき、全体で共有できる場面をつくる。
- 約束練習時において、より安全面に配慮した生徒の配置に心掛ける。

授業改善に向けて、私はこうします！

運動量を確保しつつも、生徒が意見交換したり意見を発信したりする場をつくり、生徒の思考を促すような学習活動にする。

理 科 学 習 指 導 案 (略案)

平成30年12月 4日 1校時 第1学年

1年1組(音楽室) 指導者 高田 孝幸

音を視覚化することで生徒が興味を持ち、①音の高低や大小の様子を掴むことができ、②計算することで数値化することができるであろう。

1 単元名

身近な物理現象 音の性質 音の大きさや高さ

2 本時のねらい

オシロスコープを使って、大きい音と小さい音の比較や高い音と低い音を比較し違いをみいだす。

3 展開

	生徒	教師
めあてをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○音や声を出してオシロスコープの波形に馴染む。 ○本時のめあてをつかむ ○音をオシロスコープで調べると波の波形をつくることをしる。 ○前時の復習(音の大小、音の高低の条件)を再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇概念導入型 音の大きさや高低を波形で表せることを知る。 ◇復習型 ○前時の実験で学習した音の大小、音の高低の条件について確認させる。
めあて 大きい音と小さい音、高い音と低い音の違いを気付こう。		
課題をじっくり	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題1 大きい音と小さい音の違いに気付く。 ○大きい音と小さい音をワークシートに書き込んで、比較する。 ○違いを発表する。 ◎課題2 高い音と低い音の違いに気づく。 ○高い音と低い音をワークシートに書き込んで、比較する。 ☆周波数について電卓を使って計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大きい音小さい音をピアノで代表生徒に弾かせて、波形を見させる。 ○違いを発表させる。 ○高い音低い音をピアノで代表生徒に弾かせて、波形を見させる。 ○違いを発表させる。 ☆周波数の計算について比の計算を示す。
まとめをはっきり	<ul style="list-style-type: none"> ○大きい音と小さい音の違いを確認する。 ○高い音と低い音の違いを確認する。 ・高い音は周波数が多く、低い音は振動数が小さいことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇復習型 ○音の大小や音の高低について確認させる。 ○高い音と大きい音は違う次元であることを確認させる。 ○振動数の計算について確認させる。
振り返り	○P166の問いや章末問題を考える。	問題の確認をさせる。

一人1研究授業まとめ

1年理科 高田 孝幸

1 理科における目指す子ども像

- 課題解決の場面で既習事項を活用して、問題解決に取り組んでいる生徒
- 課題解決に向けて考えを練り上げていく学習活動の過程で、思考力・判断力・表現力を高めている生徒
- 毎日の授業の中で自己決定を繰り返し、共感的人間関係を醸成し、自己存在感を味わう学び合いを行うことにより、学ぶ意欲を高めている生徒

2 題材名・単元名「身近な物理現象・音の大きさや高さを調べる」 本時4時間目

3 つなぎ教材の活用と成果

・A型概念導入型

- ・音を聞くのではなく、見るためにオシロスコープを用いて、音の高低や大小を比較させた。

<成果>

- ・音を聞きながらオシロスコープの波形が変化することで、生徒から反応が起こり、興味関心が引き出せたことや、音の高低や大小を客観視することが理論的に考察するための手がかりになったと考えられる。



4 課題

- ・音の実験の為音楽室を利用させていただいたが、様々な制約があり、調整が必要になった。
- ・モニター等で音の波形を観察するので鮮明な画面が複数あった方がストレス無く観察できると思われる。



授業改善に向けて、私はこうします！

- ・音の波形をより近くで観察できるように、モニターを設置して気軽に観察し、振動数が増減する様子や振幅が変化する様子が分かりやすくなるようにします。
- ・振動数の定義の定着を目指し、計算力が向上できるように既習事項を確認できるようにします。

社会科学習指導案(2年1組)

平成30年10月19日(金) 13:40~14:30(場所 2-1) 指導者: 齋藤博幸

〈授業改善の視点〉

京都における景観保全を考える場面において、様々な資料からその取組や影響を読み取り、根拠を持った意見交流を行えば、歴史的景観の保全と利便性の確保の両立について多面的・多角的に考えることができるであろう。

1 単元名
近畿地方

2 考察

(1) 学びのつながり

【学習指導要領における位置】

地理的分野 (2) 日本の様々な地域 「ウ 日本の諸地域」

【これまでの学び】

生徒はこれまでに小学校5年時で我が国の国土の様子を、資料や地図帳を活用しながら調べる活動を通し、我が国の地形や気候の特色を捉えてきた。また、地形や気候などの自然環境が、その地域に住む人々の生活と大きく関わっていることを高い土地のくらしやあたたかい土地のくらし等の学習を通して学んできた。さらに、我が国の国土が、豊富な森林を始め、豊かな自然環境に恵まれていること、その自然環境を保全することの大切さについて、京都市の鴨川環境保全等を例に考えてきた。その中で、環境保全には豊かな自然を守りたいという人々の願いがあり、その願いが「京都府鴨川条例」などの政策につながっていることを学んできた。また、中学校1年時では南アメリカ州の学習において、ブラジルを例に、産業の発展と開発にともなう問題について、資料を基に多面的・多角的に考え、持続可能な社会をつくるために大切なことについて考えてきた。この学習を通し、生徒は開発や経済発展の意義とともに、環境保全の重要性、さらに、その両立の大切さと難しさについて考え、持続可能な社会の実現には発展のあり方を多面的・多角的に考えていくことが重要になるということ学んできた。

【ここでの学び】

ここでは、京都市を例に歴史的景観の保全と地域が抱える生活課題に着目し、環境保全を中核としながら地域の特色を捉えていく。その際、歴史的景観の保全活動とともに、保全活動の推進により地域住民が望む生活に、どのような影響がでているのかについて調べる。そして、保全活動の意義や生活への影響を、資料を基に多面的・多角的に考察し、よりよい環境保全のありかたについて考えていく。これらの学習を通し、当事者意識をもつことの重要性についても考えさせ、主体的に社会に参画しようとする意識を高めていく。

【このあとの学び】

このあと生徒は、「産業」や「人口や都市・村落」等を中核とし、日本の諸地域の特色を捉える学習を行っていく。また、歴史分野の近現代、公民分野へと学習がつながっていく。その際、これまでの学習や、ここでの学習で培った資料を基に多面的・多角的に考える力等を発揮しながら学習を進めることで、公民としての基礎的教養を身に付けるとともに、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養っていく。

【授業中の生徒指導について】

話し合い活動では、班の中で分担して発表し合い、一人一人が活躍できる場(自己存在感)を設定する。発表し合う場を設け、全員が活躍できるようにする。考えを確認し合う時間をとるなど学び合いの場面(共感的人間関係)を通して、自信と根拠をもって自分の考えをまとめられるようにする。まとめの場面では本時の学びをワークシートにまとめ、自分の考えを自分の言葉で表現できる力を身に付けさせる。(自己決定)

(2) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領の「(2) 日本の様々な地域」の中項目「ウ 日本の諸地域」に基づいている。ここでは、日本をいくつかの地域に区分し、それぞれ異なった7つの考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。また指導に当たっては、地域的特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究する。

本単元では、7つの考察の仕方のうち、「環境問題や環境保全を中核とした考察」の仕方を基にして、近畿地方の地域的特色をとらえさせる。近畿地方の人々は琵琶湖や淀川と深く結びついた生活を送り、阪神工業地帯の発展とともに京阪神大都市圏が形成されてきた。また、奈良や京都は、長い間都として、日本の中心地として発展してきた。その中で、琵琶湖の水質保全や近畿地方全体の環境保全、古都の歴史的景観の保全など近畿地方全体にわたって様々な環境問題や環境保全の取組が行われていた。そのため、近畿地方の地域的特色については、「環境問題や環境保全を中核とした考察」の仕方を基にとらえていくことが有効であると考えられる。

(3) 生徒の実態

【社会的事象への関心・意欲・態度】

授業に取り組む姿勢は全体的に意欲的で、自分で考えて発言したり、話し合ったりする活動を活発に行う。ただ、社会的な話題、時事的な話題に関してはあまり関心が高くない。「京都には歴史的建造物がたくさんあるが、どのような保全活動を実施しているか。」と聞いたところ、ほとんどの生徒が知らなかった。また、京都を訪れたことのある生徒もほとんどいなかったことから、歴史的景観の保全活動の効果や影響について考えを深めさせ、関心を高めていきたい。

【社会的な思考力・判断力・表現力】

歴史的景観の保全活動の取組や課題について適切に考え、発表できる生徒はほとんどいない。歴史的建造物が多く残る京都市で歴史的景観の保全活動が進んだ背景と現在生じている課題を学んだ上で、よりよい環境保全のあり方についてしっかりと考えさせていきたい。

【資料活用の技能】

多くの生徒が基本的なグラフや図表、文献資料などの読み取りを行うことができる。しかし、男女とも数名、グラフや図表の読み取りが苦手な生徒が見られる。苦手な生徒には個別指導を心がけるなどし、自信をもたせていきたい。

【社会的事象についての知識・理解】

古都・京都が行っている歴史的景観の保全活動の取組やその課題について知っている生徒はほとんどいなかった。歴史的景観の保全活動の取組と課題を理解させたいうえで、相互理解と共生についての理解を深めていきたい。

3 目標

環境問題や歴史的な町なみの保全問題など、環境保全に注目して、近畿地方の特色を追求させる。

4 評価規準

関心・意欲・態度	環境保全の視点からみた近畿地方の地域的特色に関心をもち、自然環境や人々の生活、産業などと関連させながら、意欲的に追求しようとする。
思考・判断・表現力	環境保全に注目しながら、そこに住む人々の生活や産業の変化などとの関係について、原因と対策、目的と課題の面から考察し、考えたことを自分の言葉で表現できる。
資料活用の技能	景観写真などさまざまな資料から環境保全に関わる工夫や努力、また、景観保全の取組に関わる課題を適切に読み取っている。
知識・理解	環境保全に注目した視点から、近畿地方の地域的特色を的確にとらえ、その知識を身につけている。

5 指導方針 ◎学びのつながり ◇つなぎ教材 ※生徒指導3機能

- ・奈良・京都の歴史的景観を保全する取組の意義と課題の両面を考えさせることで、歴史的景観を保全することだけでは、地域住民の願いや利便性等が確保できないことに気付かせる。
- ・前時までに学習した資料やワークシートを、本時の課題解決に活用させていく。(◇)
- ・歴史的景観の保全の取組についての理解だけでなく、効果や影響等を資料から読み取り、住む人々の生活の現状を知ること(◎)により、地域で生活する人々の願いや利便性を守ることの大切さについても理解させ、環境保全について多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現する力を育てる。
- ・資料を活用する目的や意図を明確にした上で、資料の読み取りを行わせる。
- ・考えを広げたり、自分の考えに自信がもてない生徒がヒントを得たりできるように、班活動での話し合い活動を取り入れ、考えを深めたり、確認し合ったりする学び合いの場面(※)を設定する。

6 指導・評価計画(全6時間計画 本時は6時間目)

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価項目等
ふれる	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集などの資料を見て、近畿地方の自然環境(地形・気候)について概観する 	<ul style="list-style-type: none"> ・断面図を描かせ、北部と南部の山地にはさまれ、中央部は低地になっていることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の地形や気候の特色に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。【関】
追究する	4	<ul style="list-style-type: none"> ・京阪神大都市圏の水源である琵琶湖とその周辺での環境保全の取組を調べ、まとめる。 ・阪神工業地帯で発生した環境問題とその対策について考える。 ・資料から、漁獲量が減少したことを読み取らせ、その原因を考察する。 ・社会の変化にともない、歴史的景観が変化してきていることに気づく。さらに歴史的景観を保全するために、地域の人々には制約や負担があることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質改善の取組を、住民、自治体それぞれの立場から考えさせる。 ・1970年代頃から起こった環境問題について、主な原因と、対策として取り組まれてきたことをまとめさせる。 ・資料のタイトル・出典等をきちんと確認し、1970年以降、漁獲量が激減していることに気付かせる。 ・写真から、身近にあるコンビニとの違いに注目させ、デザインや色合い等における工夫を読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資料から、琵琶湖の水質悪化の状況や環境保全の取組などを適切に読み取っている。【技】 ・大企業や中小企業が行う環境問題や環境保全の取組をそれぞれ考察し、その結果を適切に表現している。【思】 ・資料とコラムから、水産業をめぐる課題と水産資源保護の必要性について考察している。【思】 ・資料から、奈良・京都における景観政策を確認させ、地方公共団体として歴史的景観保全に努めていることや地域住民への影響を理解させる。【知】
まとめる	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的景観の保全と住民の願いや利便性の確保の両立について、話し合い活動を通して、自分の考えをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでの意見を振り返らせ、よりよい環境保全と開発のあり方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的景観の保全がもたらす効果と影響の両面から考え、よりよい環境保全と開発のあり方について判断し表現している。【思】

7 本時の学習

(1)ねらい

景観保全への取組の効果と影響についての話し合い活動を通して、地域における歴史的景観の保全と利便性の確保の関係について考えることができる。

(2)準備

教科書、ノート、ワークシート、資料（資料集、地図帳、プリント等）、ICT 機器

(3)展開

学習活動と 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 ◎学びのつながり ◇つなぎ教材 ※授業中の生徒指導の3機能
1. 本時のめあてを確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてとゴールを明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
京都市が行う環境保全の取組の効果・影響について考えをまとめよう。		
2. 京都の保全活動の効果と影響について話し合う。 ①前時の内容を班で確認する。	15	<ul style="list-style-type: none"> ◇※前時までのワークシートをつなぎ教材とし活用し、保全活動に伴う効果、影響を、資料を基にして説明し合うことにより、根拠を明らかにして自分の考えを持てるようにする。(自己決定) ・他の班との話し合い、全体での交流を通して、考えの根拠を広げることができるようにする。(共感的人間関係)
②全体で発表する。 【予想される生徒の反応】 <ul style="list-style-type: none"> ・地価の向上が人口流失につながっている。 ・条例による制約で困っている人たち(店を経営する人)がいる。 ・条例が歴史的景観を保全している。 ・歴史的景観が守られ、世界を代表する観光地になっている。結果、観光客が年々増えている。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・全体発表での生徒の意見を黒板にまとめ、効果・影響、立場などを整理し、自分の考えを持たせやすいようにする。 ・意見を発表した生徒のネームプレートを貼り、生徒の活躍を視覚化し、成就感を味わわせる。(自己存在感) ・全体の話合いで得た情報を基に自分の考えを再検討し、保全活動による効果と影響を多面的・多角的に考察できるようにする。
3. 今後の保全活動のあり方について考えをまとめる。 【Key Question】 保全活動と生活の利便性の確保を両立させるために必要なことは何だろうか？	10	<ul style="list-style-type: none"> ・板書された効果・影響、立場を基に保全活動と生活の利便性の確保の両立に必要なことを自分の言葉でまとめる。 ・班でお互いの意見を交流し、発表する。
【予想される生徒の反応】 <ul style="list-style-type: none"> ・保全活動に偏りすぎず、利便性も確保できるよう地域住民の要望も反映させた条例にする。 ・条例違反ではなく、補助政策も充実させ、利便性を確保する。 		【思考・判断・表現力】 歴史的景観の保全活動にともなう効果、影響やそれに対する対策と関連づけて、これからの保全活動のあり方について自分の考え方を述べている。 (話し合い・発表・ワークシート)
4. 本時の学習でまとめたことを振り返る。	5	

一人1研究授業まとめ

2年社会 齋藤 博幸

1 社会科における目指す子ども像

- 社会的事象を大観し、資料や主題図などで検証してノートにまとめる活動を通して、地理的な特色をとらえる力が高めていくことができる生徒の育成。
- 社会的事象を多面的・多角的にとらえることのできる生徒の育成。
- 興味・関心を持って、授業に取り組むことのできる生徒の育成。

2 題材名・単元名「近畿地方」 本時6/6時間目

歴史的景観の保全と住民の願いや利便性の確保の両立について、話し合い活動を通して、自分の考えをまとめる



3 つなぎ教材の活用と成果

・型

B 復習型

・学習過程

前時までに学習した資料やワークシートを、本時の課題解決に活用させていく。

<成果>

- 複数の資料から、奈良・京都における景観政策を確認し、地方公共団体として歴史的景観保全に努めていることに気付けた。
- 複数の資料から、奈良・京都における景観政策を確認し、地域住民への影響を理解できた。
- 歴史的景観の保全がもたらす効果と影響の両面から考え、よりよい環境保全と開発のあり方について判断し表現できた。

4 課題

- まとめの部分で「保全活動と生活の利便性の確保を両立させるために必要なことは何だろうか？」という形で問いかけてしまったため、生徒の考え方を狭めてしまった。
- 「保全活動と生活への影響をふまえた上で、よりよい生活を確認するために必要なことは何だろうか？」という形で問いかけ、生徒の考えを画一的なものにさせない。

授業改善に向けて、私はこうします！

さまざまな考え方・見方を持たせるために、様々な資料を用意し、思考・判断・表現できる授業機会（資料から傾向・効果等を読み取る。話し合い様々な考え方を共有する。）を定期的に設ける。